

目 次

はじめに	2	障害児保育	50
教育課程表	3	社会的養護Ⅱ	51
教育課程科目配列表	4	子育て支援	52
選択科目の履修方法	5	教育方法論	53
A 法学（日本国憲法）	6	幼児理解と教育相談	55
体育理論	7	健康	57
体育実技	8	言葉	59
外国語コミュニケーション	9	音楽表現Ⅰ	61
情報機器の操作	10	音楽表現Ⅱ	63
健康科学	11	造形表現	65
レクリエーション理論	12	音楽Ⅰ	67
レクリエーション実技	13	音楽Ⅱ	68
B 保育原理Ⅰ	14	F 教育実習（前半分）	69
教育の原理と制度	15	教育実習（後半分）	70
子ども家庭福祉	17	保育実習Ⅰ（保育所）	71
社会福祉	18	保育実習指導Ⅰ（保育所）	72
子ども家庭支援論	19	保育実習Ⅰ（施設）	73
社会的養護Ⅰ	20	保育実習指導Ⅰ（施設）	74
教職・保育者論	21	保育実習Ⅱ	75
C 幼児教育・保育心理学Ⅰ	23	保育実習指導Ⅱ	76
子ども家庭支援の心理学	25	保育実習Ⅲ	77
子どもの理解と援助	26	保育実習指導Ⅲ	78
子どもの保健	27	G 教職・保育実践演習	79
子どもの食と栄養	28	H 保育原理Ⅱ	80
D 保育指導法	29	児童家庭福祉Ⅱ	81
特別支援の理論と方法	31	臨床心理学	82
教育課程と保育計画	33	保育内容演習Ⅱ（造形）	83
保育内容総論	35	保育内容演習Ⅱ（生活）	84
保育内容演習Ⅰ（健康）	37	保育内容演習Ⅱ（音楽）	85
保育内容演習Ⅰ（人間関係）	39	保育内容演習Ⅱ（運動）	86
保育内容演習Ⅰ（環境）	41	音楽Ⅲ	87
保育内容演習Ⅰ（言葉）	43	音楽（ピアノ）	88
保育内容演習Ⅰ（表現）	45	言語Ⅱ	89
E 乳児保育Ⅰ	47	環境	90
乳児保育Ⅱ	48	リトミック・音楽理論	91
子どもの健康と安全	49		

はじめに

学生の皆さんが、幼稚園教諭・保育士養成科で、2年間に学ぶ「教育課程」は、次のような考え方のもとに編成されています。その基本的な考え方を知り、学ぶ目的や学ぶ順序をしっかりと把握して、学習に取り組んでください。

- (1) 教育課程：幼稚園教諭免許と保育士の資格を同時に取得するためには、次の5つの専門に関連した科目を学習し、専門知識、技能を身につけなければなりません。

イ．一般的、基礎的な教養に関する科目

ロ．教育に関する科目

ハ．保育に関する科目

ニ．養護に関する科目

ホ．福祉に関する科目

- (2) 教育課程を構造的に、科目の性格によって分類すると、次のような系列に分けられます。それぞれの系列を構成する科目の詳細は、次頁の「教育課程表」に示されています。

A．教養科目

B．教育の基礎理解に関する科目 保育の本質・目的に関する科目

C．教育の基礎理解に関する科目含む 保育の対象の理解に関する科目

D．教育の基礎理解に関する科目含む 保育の内容・方法等に関する科目

E．道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
保育の内容・方法に関する科目

F．領域に関する科目 大学が独自に設定する科目 保育の内容・方法に関する科目

G．教育実践に関する科目・保育実習

H．教育実践に関する科目・総合演習

I．領域に関する科目 保育に関する科目

- (3) 科目の配列

教育課程表に整理されている科目を、各系列ごとにバランスよく学習することができるように、2年間の4期に分けられ、そのそれぞれに、各系列の科目が配列されています。配列の詳細は、4ページ「教育課程科目配列表」に示されています。

- (4) 各科目の単位を取得するためには、授業に規定回数以上出席し、試験等で合格規準（60 点以上）に達する成績をとることが必要です。

別表 1 - 1 教育課程表（平成 31 年度入学生～）

教育課程表

科目区分	必修・ 選択の 別	授業科目	授業 形態	第 1 学年		第 2 学年		授業時数合計 (単位数)	
				年間授業時数	単位数	年間授業時数	単位数		
A 教養科目	必修	法学（日本国憲法）	講義	30	2			30 (2)	
		体育理論	講義	15	1			15 (1)	
		体育実技	実技	30	1			30 (1)	
		外国語コミュニケーション	演習	30	2			30 (2)	
		情報機器の操作	講義	30	2			30 (2)	
	選択	健康科学	講義			30	2	30 (2)	
		レクリエーション理論	講義	30	2			30 (2)	
		レクリエーション実技	実技			45	1	45 (1)	
B 教育の基礎理解に関する科目 保育の本質・目的に関する科目	必修	保育原理Ⅰ	講義	30	2			30 (2)	
		教育の原理と制度	講義	30	2			30 (2)	
		子ども家庭福祉	講義	30	2			30 (2)	
		社会福祉	講義	30	2			30 (2)	
		子ども家庭支援論	講義			30	2	30 (2)	
		社会的養護Ⅰ	講義			30	2	30 (2)	
		教職・保育者論	講義	30	2			30 (2)	
C 教育の基礎理解に関する科目含む 保育の対象の理解に関する科目	必修	幼児教育・保育心理学Ⅰ	講義	30	2			30 (2)	
		子ども家庭支援の心理学	講義			30	2	30 (2)	
		子どもの理解と援助	演習	30	1			30 (1)	
		子どもの保健	講義	30	2			30 (2)	
		子どもの食と栄養	演習	30	2			30 (2)	
D 教育の基礎理解に関する科目含む 保育の内容・方法に関する科目	必修	保育指導法	演習			30	2	30 (2)	
		特別支援の理論と方法	演習	30	1			30 (1)	
		教育課程と保育計画	講義			30	2	30 (2)	
		保育内容総論	演習	30	1			30 (1)	
		保育内容演習Ⅰ（健康）	演習			30	1	30 (1)	
		保育内容演習Ⅰ（人間関係）	演習			30	1	30 (1)	
		保育内容演習Ⅰ（環境）	演習			30	1	30 (1)	
		保育内容演習Ⅰ（言葉）	演習			30	1	30 (1)	
		保育内容演習Ⅰ（表現）	演習	30	1			30 (1)	
E 道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	必修	乳児保育Ⅰ	講義	30	2			30 (2)	
		乳児保育Ⅱ	演習			30	1	30 (1)	
		子どもの健康と安全	演習			30	1	30 (1)	
		障害児保育	演習	30	2			30 (2)	
		社会的養護Ⅱ	演習			30	1	30 (1)	
		子育て支援	演習			30	1	30 (1)	
		教育方法論	講義	30	2			30 (2)	
		幼児理解と教育相談	講義	30	2			30 (2)	
F 領域に関する科目 大学が独自に設定する科目 保育の内容・方法に関する科目	必修	健康	演習	30	1			30 (1)	
		言葉	演習	30	1			30 (1)	
		音楽表現Ⅰ	演習	30	1			30 (1)	
		音楽表現Ⅱ	演習			30	1	30 (1)	
		造形表現	演習	30	1			30 (1)	
		音楽Ⅰ	演習	30	1			30 (1)	
		音楽Ⅱ	演習	30	1			30 (1)	
G 教育実践に関する科目・保育実習	必修	教育実習	実習	90	2	135	3	225 (5)	
		保育実習Ⅰ	実習	90	2	90	2	180 (4)	
		保育実習指導Ⅰ	演習	30	1	30	1	60 (2)	
	選択 必修	保育実習Ⅱ	実習			90	2	90 (2)	
		保育実習指導Ⅱ	演習			30	1	30 (1)	
		保育実習Ⅲ	実習			90	2	90 (2)	
		保育実習指導Ⅲ	演習			30	1	30 (1)	
H 教育実践に関する科目・総合演習	必修	教職・保育実践演習	演習			30	2	30 (2)	
I 領域に関する科目 保育に関する科目	選択 必修	保育原理Ⅱ	講義			30	2	30 (2)	
		児童家庭福祉Ⅱ	演習			30	2	30 (2)	
		臨床心理学	演習			30	2	30 (2)	
		保育内容演習Ⅱ（造形）	演習			30	1	30 (1)	
		保育内容演習Ⅱ（生活）	演習			30	1	30 (1)	
		保育内容演習Ⅱ（音楽）	演習			30	1	30 (1)	
		保育内容演習Ⅱ（運動）	演習			30	1	30 (1)	
		音楽Ⅲ	演習			30	1	30 (1)	
		音楽（ピアノ）	演習			30	1	30 (1)	
		言語Ⅱ	演習			30	1	30 (1)	
		環境	演習			30	1	30 (1)	
			リトミック・音楽理論	演習	30	1			30 (1)
			必修科目数・時数・単位数	48科目	1005	47	705	27	1710 (74)
	選択科目数・時数・単位数	19科目	60	3	645	23	705 (26)		
	卒業に必要な最低科目数・時間数・単位数	53科目					1920 (83)		

選択科目の履修方法

保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱまたは保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲを選択履修のこと。

教育課程 科目配列表

系 列		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期
A	必修	法学（日本国憲法） 体育実技	体育理論 外国語コミュニケーション 情報機器の操作		
	選択		AS レクリエーション理論* ¹	AS レクリエーション実技* ¹	AS 健康科学* ¹
B	必修	保育原理Ⅰ 教育の原理と制度 子ども家庭福祉 社会福祉 教職・保育者論		子ども家庭支援論 社会的養護Ⅰ	
C	必修	幼児教育・保育心理学Ⅰ	子どもの理解と援助 子どもの保健 子どもの食と栄養	子ども家庭支援の心理学	
D	必修	特別支援の理論と方法 保育内容演習Ⅰ（表現）	保育内容総論	保育内容演習Ⅰ（健康） 保育内容演習Ⅰ（人間関係） 保育内容演習Ⅰ（環境） 保育内容演習Ⅰ（言葉）	保育指導法 教育課程と保育計画
E	必修	乳児保育Ⅰ	障害児保育 教育方法論 幼児理解と教育相談	子どもの健康と安全 社会的養護Ⅱ 子育て支援	乳児保育Ⅱ
F	必修	言葉 造形表現 音楽Ⅰ	健康 音楽表現Ⅰ 音楽Ⅱ	音楽表現Ⅱ	
G	必修	実習指導* ²	教育実習（含教育実習指導） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅰ（保育所）	教育実習（含教育実習指導） 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習指導Ⅰ（施設）	
	選択				GS 保育実習Ⅱ GS 保育実習指導Ⅱ GS 保育実習Ⅲ GS 保育実習指導Ⅲ
H	必修				教職・保育実践演習
I	選択	IS リトミック・音楽理論		IS 音楽Ⅲ	IS 保育原理Ⅱ IS 児童家庭福祉Ⅱ IS 臨床心理学 IS 保育内容演習Ⅱ（造形） IS 保育内容演習Ⅱ（生活） IS 保育内容演習Ⅱ（音楽） IS 保育内容演習Ⅱ（運動） IS 音楽（ピアノ） IS 言語Ⅱ IS 環境

* 1 “AS” は A 系列の選択科目を示す。“GS” “IS” も同様。

* 2 平常時時間割内に実習指導の時間を開設する。

※ 授業が開講となる期は、変更になる場合があります。

選択科目の履修方法

教育課程表にも記載されていますが、本校の選択科目履修規定は以下のとおりです。

1. 卒業条件を満たすための科目選択方法

G 系列選択科目

保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱまたは保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのいずれか一方を選択履修し、単位を修得する。

I 系列選択科目

音楽Ⅲ、リトミック・音楽理論を含め、選択科目登録説明会の指導要件を満たすこと。

2. レクリエーション・インストラクターの資格を取得するための科目選択方法

- ① A 系列選択科目のうち、レクリエーション理論とレクリエーション実技の両科目を選択履修。
- ② 保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、教育実習も履修の上、夏期キャンプ実習および現場実習も参加すること。

3. 救急・蘇生法適任証を取得するための科目選択方法

- ① A 系列選択科目のうち、健康科学を選択履修し、授業に組み込まれている「救急蘇生法に関する講習」を全て受講すること。

4. 乳幼児健康体育指導士

- ① 卒業条件を満たすこと。
- ② I 系列選択科目のうち、保育内容演習Ⅱ（運動）を選択履修し、授業に組み込まれている「乳幼児健康体育指導士に関する講習」を全て受講すること。

5. 科目選択において配慮すべき事項

科目選択については上記方法以外に、下記の点を十分に配慮し、決定してください。

将来の就職を見据えた関連科目の履修

- ・将来、積極的に施設への就職を考える者は、保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲを選択すること。
- ・保育所への就職を考える者は、保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱを選択すること。

以上のことを十分理解した上で、各人の興味関心、将来の方向性を見据え、本書を熟読し、教科の内容と関連、学習目的を明確にし、これらをバランスよく履修するよう心がけてください。

法学(日本国憲法)

担当 伊東明子

講義 1 年前期

◇授業の目的・ねらい

現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定しています。社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

◇授業全体の内容の概要

基本的な知識の説明と共に、身近な問題や裁判例を取り上げて解説します。DVDなどの映像資料も活用します。はじめて「法学」を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。

授業中にメモを取り、自分の考えをまとめて書く機会を設けます。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加することを希望します。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につけること、現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができるようになることをこの講義の目標とします。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	ガイダンス／法とは何か・法学を学ぶ意味
第2回	日本国憲法と基本原理
第3回	人権とは何か／生命・自由・幸福追求権
第4回	法の下での平等
第5回	人権は誰のものかー子ども・障害者・外国人の人権（1）
第6回	人権は誰のものかー子ども・障害者・外国人の人権（2）
第7回	精神的自由権（内心の自由・表現の自由）
第8回	経済的自由権
第9回	社会権（生存権、教育権、労働基本権）
第10回	身体的自由権（人身の自由）
第11回	裁判所（司法権）
第12回	国民の司法参加
第13回	日本国憲法と平和主義
第14回	まとめと試験の説明
第15回	教育者として、また一（いち）生活者として、社会の中でいかに日本国憲法を生かして行くかを考える（試験）

◇テキスト

『目で見える憲法＜第5版＞』初宿正典ほか編 有斐閣
授業で配布するレジュメ

◇参考書・参考資料等

・六法（各社発行の簡便なもの）

◇単位認定の方法及び基準

- ・学期末筆記試験（評価の70%）
- ・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の30%）

体育理論

担当 北原隆史
田代浩二

講義 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 基礎的教養として体育・スポーツの意義を理解する。
 - 1) 体育・スポーツとは何か、またその意義について理解している。
 - 2) Quality of Lifeとスポーツ・体育の関連とその重要性の背景を理解している。
- (2) 障害者スポーツの現状と課題を理解する。
 - 1) 障害者スポーツの現状と課題またその支援の在り方について理解している。
- (3) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。
 - 1) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解している。
 - 2) 運動発達による子どもの資質・能力への影響とその支援の在り方について理解している。
- (4) 乳幼児の体力とその支援の在り方。
 - 1) 乳幼児期の健康・体力と生活：栄養・休養・運動の重要性とその支援の在り方について理解している。

◇授業の概要

近年の様々な教育的なテーマ「生きる力を育む」「資質・能力」「心を育む：非認知能力」「共生」を体育的な視点から考察し、また体育の在り方の動向とその基本的理論背景について学ぶと共に理論の構築の在り方について学習する。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション：基礎的教養としての体育・スポーツ
第2回	スポーツと Quality of Life：今日的課題と支援の在り方
第3回	障害者スポーツの現状と課題
第4回	運動技能獲得の要因と基本的理論
第5回	乳幼児の体育とその支援の在り方
第6回	乳幼児期の体育指導の在り方1 運動文化の伝承とその在り方
第7回	乳幼児期の体育指導の在り方2 保育現場での実習を通して理論的な背景を探る
第8回	乳幼児期の体育指導の在り方3 体育指導計画の在り方を探る
第9回	まとめ

◇学生に対する評価

授業への取り組み（50%）、レポート・課題への取り組みと成果（50%）

体育実技

担当 北原隆史
田代浩二

実技 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 運動・スポーツの文化的価値の多様性について理解する。
 - 1) 人と人との運動的な関わりを通してのコミュニケーションの意義を体験的に理解する。
 - 2) 運動・スポーツに対する肯定的な視座を獲得する。
- (2) 協働的に課題に取り組みながら人と表現工夫することの意義を理解する。
 - 1) 集団での表現活動、発表を通しての身体的表現活動の魅力を理解する。
 - 2) 協働的に取り組むことの教育的な意義を体験的に理解する。
 - 3) 協働的に取り組むことの達成感による帰属意識の高まりと自己肯定感への影響を体験的に理解する。
- (3) 運動・スポーツ文化を伝承する保育者としての基本的資質向上を図る。
 - 1) 運動・スポーツを通しての人間観、人間関係の変化の要因について体験的に理解する。
 - 2) 運動・スポーツを通して支援することの本質について触れる。

◇授業の概要

Comfort Zone（居心地のよい空間）の広がりとそこからのさらに一歩踏み出せる勇気と視点の多様性をテーマにして授業を展開する。そのため、その人なりの運動への関わり方を認め、その人なりのレベルで活動することにより、相互に影響しあう経験を共有する。また、限られた運動環境を活かし、様々な視点から活動を考え工夫することから視点の多様性による可能性の広がりを体験的に学ぶ。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション 保育者にとってのスポーツ・運動の意義
第2回	コミュニケーションゲーム アイスブレイク
第3回	グループコミュニケーション 1
第4回	グループコミュニケーション 2
第5回	リズムに合わせた身体的表現活動 1 創作活動
第6回	リズムに合わせた身体的表現活動 2 発表会準備
第7回	リズムに合わせた身体的表現活動 3 発表会
第8回	長縄飛びによるグループワークトレーニング 1
第9回	長縄飛びによるグループワークトレーニング 2
第10回	様々な長縄飛びのバリエーション
第11回	ニュースポーツ ユニホック 1 基礎的ルールと技術の把握
第12回	ニュースポーツ ユニホック 2 戦術構築の在り方
第13回	ニュースポーツ ユニホック 3 実践練習
第14回	ニュースポーツ ユニホック 4 ユニホックス
第15回	まとめ 授業振り返り

◇学生に対する評価

授業への取り組み（50%）、課題達成に向けての過程、レポート（50%）

外国語コミュニケーション

担当 国重春江 演習 1年後期
イヴァンシュク・イリーナ

◇授業の目的・ねらい

最近、幼児教育の現場でも外国語を使う幼児を相手にすることが多くなり、外国語、特に英語によるコミュニケーション能力が様々な場面で必要とされると想定される。その能力向上を図る。

◇授業全体の内容の概要

- ①テキスト「保育の英会話」に沿って現場で使う単語や文を学ぶ。
- ②英語での対話練習をする。
- ③英語の子どもの歌を知る。
- ④外国の文化の理解を深める。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

将来、保育者としての仕事で要求される英語に対応できるような英語基礎力が身についている。日本と外国の文化の違いを知る。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション クラス選択 Unit 1. 自己紹介、人を紹介する表現
第2回	Unit 2. 挨拶の表現 他
第3回	決定クラスで授業 各自クラス決定 Unit 3. 時間の問い方、答え方 大きな数の読み方
第4回	Unit 4. 場所や道順の問い方答え方
第5回	Unit 5. 教室や園庭で子どもたちがすること、遊び方の表現
第6回	Unit 6. 感情や感覚の表現
第7回	Unit 7. 保育者の一日の仕事 スピーキングテストの練習
第8回	Unit 8. 「料理」「食品」「レシピ」に関する表現 「好き」「嫌い」の問い方答え方
第9回	Unit 9. トイレトレーニングに関する表現
第10回	Unit 10. 子ども同志のトラブルの時の表現 体の部位を表す言葉
第11回	Unit 11. 子どものけがや病気 医療機関や応急処置に関する表現
第12回	Unit 12. 電話連絡に役立つ表現
第13回	Unit 13. 遠足 日本の伝統的祝祭等に関する表現
第14回	テストの時間・教室・伝達 スピーキングテスト練習
第15回	スピーキングテスト

◇使用テキスト・参考文献

『保育の英会話』赤松直子・久富陽子 著 萌文書林

◇単位認定の方法及び基準

- スピーキングテスト（20%）
授業の取り組み（80%）

情報機器の操作

担当 丸林さちや 講義 1年後期

◇授業の目的・ねらい

保育者にとって必要とされる情報機器の操作とアプリケーションソフトの活用法について、実践を交えながら学ぶ。また情報の取り扱いについても考えていく。

◇授業の概要

現代社会における情報化の進展から、保育現場でも文書管理や個人情報のデータ管理が求められている。園便り等の作成やプレゼンテーションを行い、技術を高める。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

メディアリテラシーに触れ情報の取り扱いの重要性を学び、情報機器の操作を習得することを目標とする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	授業のねらい・情報リテラシーとは何か
第2回	学校行事ポスター作成 ペイント
第3回	メディアリテラシーの取り組み方
第4回	クリスマスカード ペイントとPowerPoint
第5回	幼稚園保育所におけるおたよりの意義
第6回	園だより作成 Word
第7回	Excelとは何か
第8回	カレンダー作成 Excel
第9回	保育の事務作業を効率よくする工夫
第10回	身体測定記録票・写真購入票作成 Excel
第11回	保育現場における情報の取り扱い・著作権
第12回	動く紙芝居① PowerPoint
第13回	動く紙芝居② PowerPoint
第14回	発表の練習とプロジェクト操作
第15回	学習のまとめ 作成した動く紙芝居を発表

◇使用テキスト・参考文献

プリント

◇単位認定の方法及び基準

課題 30%、発表 70%

健康科学

担当 島本悦次
北原隆史

講義 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

保育者としての健康の保持増進のあり方を理解すると共に乳幼児の健康、安全への具体的な実践力の向上を図る。安全救急処置の具体的な方法について理解し、実践力の向上を図る。

◇授業の概要

受講学生自身、即ち青年期の健康とこれから関わるであろう乳幼児の健康と対応について医療現場および教育関係者からの情報提供と実技指導を行う。また、乳幼児と関わる上で、救急処置および心肺蘇生の理論と実践、および教育現場におけるリスクマネジメントの基礎は欠かせない資質の一つであろう。本授業では、日本医学協会の救急・蘇生法教育部の協力を得て、講義と実習が実施される。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	青年期の健康
第3回	乳幼児の健康と対応
第4回	乳幼児の日常のケガ・事故と対応
第5回	障害児の健康と対応
第6回	救急・蘇生法の基礎
第7回	救急・蘇生法講習（1）小児科救急
第8回	救急・蘇生法講習（2）外科救急
第9回	救急・蘇生法講習（3）内科救急
第10回	救急・蘇生法講習（4）保育者をめざす人の救急法
第11回	救急・蘇生法講習（5）救急法の実際（心肺蘇生法、成人、AED）
第12回	救急・蘇生法講習（6）救急法の実際（心肺蘇生法、乳児）
第13回	救急・蘇生法講習（7）救急法の実際（気道閉塞の解除）
第14回	救急・蘇生法講習（8）救急法の実際（三角巾、止血法、搬送）
第15回	まとめ（理論・実技の振り返りと最終確認）

◇参考書・参考資料等

日本医学協会の救急蘇生法テキスト

◇学生に対する評価

筆記試験の成績（80％）授業への取り組み（20％）

レクリエーション理論

担当 熊澤桂子

講義 1年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①レクリエーション理論を学び、基礎的知識や指導者論を理解する。
- ②レクリエーションの指導方法、企画方法を体験的に学ぶ。
- ③日本レクリエーション協会公認指導者「レクリエーション・インストラクター」の資格取得を目指す。

◇授業全体の内容の概要

「心を元気にする」を目的にレクリエーションをするための基礎的な知識を学ぶ、またレクリエーションを体験し、その指導方法等、技術を身につける。後半ではグループ活動として、幼児を対象とした活動の企画を行い、準備・実技の発表をする等、理論に裏付けられた指導者としての実践力を身につける。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ・公認指導者として必要な知識の習得と、指導者としての役割心得が理解できる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション：レクリエーションゲームの体験、自己紹介
第2回	レクリエーションとは何か、目的は何か。
第3回	レクリエーション支援のあり方、レク・インストラクターの役割
第4回	レクゲームの基本①(アイスブレイキングの意義を理解する。)
第5回	レクゲームの基本②(ホスピタリズムの理解。対象者との信頼関係づくりの方法。)
第6回	レクゲームの基本③(対象者が主体的に参加するための展開方法。手遊びを中心に。)
第7回	地域とレクリエーション(地域理解と、地域ニーズを取り入れたレク活動のあり方)
第8回	福祉レクリエーションの考え方と実際(障がいのある子どもへの対応等)
第9回	乳幼児とその親を対象にした子育て支援の活動とレクリエーション
第10回	レクリエーション活動の企画方法を知る。
第11回	レクリエーション事業の企画準備①
第12回	レクリエーション事業の企画準備②
第13回	レクリエーション事業の企画準備③
第14回	レクリエーション事業の企画発表
第15回	まとめ：レクリエーション・インストラクターの心得と役割の理解

◇使用テキスト・参考文献

『楽しさをとoshita心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法』
公益財団法人 日本レクリエーション協会

◇単位認定の方法及び基準

授業での課題の取り組み 20% グループでの企画発表 40% 試験 40%

レクリエーション実技

担当 北原隆史

実技 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

①コミュニケーションワークの実践力の向上を図る②レクリエーション支援者としての他者理解と自己理解へのチャレンジを図る。③ホスピタリティの概念の理解とそれに基づく支援の重要性を実践的に理解する。④レクリエーション活動におけるリスクマネジメントの重要性を理解する。⑤具体的なレクリエーション支援の方法論（企画力、運営力）の向上を図る。

◇授業の概要

レクリエーションに関する理論的な学習をもとにして、より実践的な活動、活用方法（ホスピタリティトレーニング、アイスブレイキングなど）を体験しながら、レクリエーションワークに関する具体的な方法について実践的に学習する。また、その学習を発展させながら豊かな自然環境の中での素晴らしい自然、仲間、そして自分と出会う体験（キャンプ実習）を通して保育者としての基本的な資質の高まりを期待する。レクリエーション理論・実技を履修し、現場実習の単位を取得し、所定の手続きをした者は、レクリエーション・インストラクターの資格が与えられる。

◇授業計画

	内 容
第1回	ホスピタリティの体験的理解
第2回	ホスピタリティの習得
第3回	アイスブレイキング・モデルの体験的理解
第4回	アイスブレイキングの効果を高める支援技術の習得
第5回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法1
第6回	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法2
第7回	音楽に合わせた身体活動の実際と支援のあり方
第8回	ニュースポーツ種目の実際と支援のあり方
第9回	障害者のレクリエーション活動の実際と支援のあり方
第10回	乳幼児を対象としたレクリエーション活動の実際と支援のあり方
第11回	キャンプ実習の目的とそのアクティビティの展開方法
第12回	キャンプ実習 リスクマネジメントの方法
第13回	キャンプ実習 プログラム立案方法の習得
第14回	キャンプ実習 レクリエーション支援の実施と改善1
第15回	キャンプ実習 レクリエーション支援の実施と改善2

◇参考書・参考資料等

『楽しさをととした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法』
公益財団法人 日本レクリエーション協会

◇学生に対する評価

授業・課題への取り組みを総合的に評価する。

保育原理Ⅰ

担当 兼重祐子

講義 1 年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育の意義を理解する
- ②和田実の幼児教育を理解する
- ③年齢毎の身体的発達、精神的発達をしっかりと押さえる
- ④保育所の機能と役割や制度について学ぶ

◇授業全体の内容の概要

「保育とは何か」という基本的概念を身に付けた上で、保育の意義、保育の歴史、保育方法、保育形態など保育の実践的展開にかかわる問題について取り上げていく。本校創設者である和田実先生の幼児教育について理解を深めていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

保育者として身に付けておくべき保育の基本、子ども観、保育観、保育の専門性について習得する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション ①保育所保育指針における意義と目的②子どもの最善の利益とは③保育の社会的役割と責任
第2回	①グループディスカッション、「保育とは何か、指導するとは何か、誰の為の保育か」を考えてみる ②グループごとに発表を行い、保育の意義を理解する
第3回	西洋の保育の歴史 フレーベルを中心に
第4回	日本の保育の歴史 明治時代から昭和時代前半の保育内容を中心に
第5回	和田実の幼児教育について（1） ①和田実の幼児教育の特徴をおさえる
第6回	和田実の幼児教育について（2）①感化誘導を用いた事例を通して考察する ②和田実の幼児教育のまとめ（DVD）
第7回	『保育所保育指針』における基本 ①保育所保育における基本原則とは ②保育所保育における基本原則・保育の目標と内容
第8回	年齢別発達課題(1)①3歳児位のDVDを観る②3歳以上児の養護・健康の内容を確認
第9回	年齢別発達課題(2)①4歳児位のDVDを観る②3歳以上児の人間関係・環境の内容を確認
第10回	年齢別発達課題(3)①5歳児位のDVDを観る②3歳以上児の言葉・表現の内容を確認
第11回	子育て支援・保幼少の連携とは(1) ①成立過程と保育の実際を学ぶ
第12回	子育て支援・保幼少の連携とは(2) ①保育体験学習から子育て支援や保幼少の連携の取り組みをグループで話し合い発表する ②PDCAサイクルについて
第13回	様々な保育方法と保育形態 ①宗教保育、モンテッソーリ教育、森のようちえん等様々な保育方法を知る ②異年齢保育、クラス別保育、統合保育等、様々な保育形態について学ぶ
第14回	幼稚園、保育園、認定こども園の法令の違いを中心に学ぶ
第15回	前期のまとめ

◇テキスト

『改訂版 保育原理の基礎と演習』柴崎正行 編 わかば社 2018年
『すてきな保育者をめざして』兼重祐子 監修 学校法人和田実学園

◇参考書・参考資料等

『幼児教育法』中村五六・和田 實 合著 学校法人和田実学園

◇学生に対する評価

授業中の積極的参加・授業態度（20%）、課題提出（20%）、試験（60%）により総合評価をする。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

教育の原理と制度

担当 高橋かほる 講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

○教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

全体目標：現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

（１－１）教育に関する社会的事項

一般目標：社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。

到達目標：１）学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。

２）子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。

３）近年の教育政策の動向を理解している。

４）諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。

（１－２）教育に関する制度的事項

一般目標：現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。

到達目標：１）公教育の原理及び理念を理解している

２）公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。

３）教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。

４）教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。

（１－３）教育に関する経営的事項

一般目標：学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。

到達目標：１）公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。

２）学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。

３）学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。

４）教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。

（２）学校と地域との連携

一般目標：学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。

到達目標：１）地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。

２）地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。

（３）学校安全への対応

一般目標：学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

到達目標：１）学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。

２）生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

○教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

全体目標：教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

（１）教育の基本的概念

一般目標：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。

到達目標：１）教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。

２）子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

（２）教育に関する歴史

一般目標：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に

至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。

到達目標：１）家族と社会による教育の歴史を理解している。

２）近代教育制度の成立と展開を理解している。

３）現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。

（３）教育に関する思想

一般目標：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

到達目標：１）家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。

２）学校や学習に関わる教育の思想を理解している。

３）代表的な教育家の思想を理解している。

◇授業の概要

「教育とは何だろう」という問いに対して、系統的、集中的に考え、教育への認識を広く深いものにし、認識を再確認する。

学生自身が「教育とは何か」についての考えを深めていくために、１）人間の生涯発達における教育の意義や目的について理解すること ２）日本や諸外国の「子ども観」「教育観」の変遷や教育の歴史について学ぶこと ３）日本や諸外国の教育制度について理解すること ４）現代の教育の現状と教育課題を深めることを目指す。

更に、子どもの教育に携わる者としての在り方について自分自身を振り返り見つめ直す等の時間を設けると共に、実践につなげる力を身に付けていけるよう考え合う。

◇授業計画

	内 容
第１回	「人間とは何か」「教育とは何か」 教育の本質と教育に関する思想の理解
第２回	成長・成熟と「発達」 教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互関係の理解
第３回	子ども観・教育観の変遷 教育に関する社会状況の変化と代表的な教育家の思想
第４回	教育への権利と「子どもの権利条約」 近代教育制度の成立と展開及び教育改革の動向の理解
第５回	「学ぶ」ということの意味、自分の「学びの過程」 公教育の原理・理念と現代社会における教育課題の理解
第６回	「ともに学ぶ」意味 子どもの生活の変化と学校制度への影響と課題の理解
第７回	学校の誕生とその歩み（日本・諸外国） 教育制度を支える教育行政の理念の変遷と課題の理解
第８回	学校のしくみ（制度・法令・等々） 現代公教育制度の法的・制度的仕組みと課題の理解
第９回	教育課程・カリキュラム 多様な教育の理念や実際の教育及び学校安全への対応の理解
第10回	就学前教育 地域との連携・協働による教育活動の意義及び方法の理解
第11回	評価（指導要録等） 教育活動の流れと学校評価の基礎理論の理解
第12回	教師の支援とは 学級経営の仕組みと効果的方法の理解
第13回	個性重視の教育とは 近年の教育政策の動向及び危機管理や事故対応の必要性の理解
第14回	保育者の専門性とは 社会状況の変化を踏まえた指導上の課題の理解
第15回	全体のまとめ 教職員、学校外関係者、関係機関との連携・協働の在り方・重要性の理解

◇テキスト

『「子どもの教育の原理」保育の明日をひらくため』古橋和夫 編著 萌文書林

◇参考書・参考資料等

『「学ぶ」ということの意味 子どもと教育』佐伯 胖 著 岩波書店 1995 年

◇学生に対する評価

提出物（10％）・小テスト（20％）・本試験（70％）により総合的に評価する

子ども家庭福祉

担当 熊澤桂子

講義 1 年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①現代における子ども家庭の課題を知り、その課題に対応する制度・福祉サービスを知る
- ②子ども家庭に関わる課題（児童虐待や子育て支援、課題のある子ども等）の原因や、それに対応する保育者の役割、他機関との連携を理解し、子どもの健全育成をすすめる子育て支援の動向や展望の理解をする。

◇授業全体の内容の概要

子ども家庭福祉とは何かを理解し、現代社会で子どもや子育て家庭のおかれている状況を学び、また、子どもを取り巻く環境から、その課題に対応した制度・福祉サービスを知ること、保育者としての役割や子ども・保護者へのあり方を学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ①子どもの権利と現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解している。
- ②子ども家庭福祉と保育の関連性や、制度・福祉サービス等、その仕組みを理解している。
- ③子どもを取り巻く社会を理解し、児童家庭福祉の現状と課題について考えられる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第 1 回	子ども家庭福祉の理念と概念～歴史的な変遷から見る～
第 2 回	少子化と児童家庭福祉の役割
第 3 回	子ども家庭福祉が担う保育サービスとは
第 4 回	子ども権利条約と子どもの権利を擁護する考え方(子ども観のとらえ方)
第 5 回	子ども家庭福祉の法律と行政の仕組み・財政
第 6 回	子ども家庭福祉の実施機関と施設
第 7 回	少子化と子育て支援サービス
第 8 回	母子保健サービスと子ども家庭の支援
第 9 回	児童健全育成活動と子どもの育ち（専門職の支援のあり方）
第10回	多様な保育ニーズへの対応（妊娠期からの切れ目のない支援）
第11回	児童虐待とドメスティックバイオレンス
第12回	社会的養護の現状と課題
第13回	障がいのある子どもへの支援
第14回	非行への対応
第15回	まとめ：子ども・子育て支援と子ども家庭福祉の動向と展望

◇使用テキスト・参考文献

- 『図解で学ぶ保育「子ども家庭福祉」』直島正樹・河野清志 編著 萌文書林
『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2020』 中央法規

◇単位認定の方法及び基準

授業への取り組み姿勢 20%、課題の提出等 30%、試験 50%

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

国立児童総合センターこどもの城に、開館以来 29 年間勤務。子厚生労働省社会保障審議会児童部会「遊びのプログラム等に関する専門委員会」委員（2 年）。東京都放課後児童支援員認定資格研修会講師（5 年）の実績を持つ。

社会福祉

担当 会田明世

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

社会福祉の基礎知識を習得するとともに、社会にとって必要なシステムであることを理解する。また、現代社会における社会福祉の動向や課題を学び、対人援助の専門職になる者としての自覚を促す。

◇授業の概要

社会福祉の意味や概念、歴史、児童家庭福祉、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉等についてそれぞれの分野の考え方や支援の方法などを学ぶ。社会福祉に携わる専門職である保育者に求められている視点、保育者の役割についても考えていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
3. 社会福祉における相談援助について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

◇授業計画

	内 容
第1回	社会福祉とは 保育者が福祉を学ぶ意義
第2回	社会福祉の基本理念 現代社会を取り巻く生活問題
第3回	社会福祉の歴史的変遷 日本や欧米の福祉の変遷と社会的背景
第4回	社会福祉の法律と制度 社会福祉行政と実施機関
第5回	社会福祉にかかわる行政機関と社会福祉施設 社会福祉の専門職・実施者
第6回	児童家庭福祉 子どもの人権と家庭支援
第7回	障害者福祉 障がいのある人の生活を支えるしくみ
第8回	高齢者福祉 高齢者の保護・医療・介護保険制度
第9回	社会保障制度の概要 生活保護の基本的な考え方
第10回	地域福祉 在宅福祉の推進
第11回	社会福祉における相談援助の理論
第12回	社会福祉における相談援助の方法と技術
第13回	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 権利擁護と後見制度
第14回	少子高齢化社会における子育て支援 関係機関との連携
第15回	社会福祉の動向と展望（まとめ）

◇使用テキスト・参考文献

『社会福祉と私たちの生活－保育を学ぶ人のために』小林育子・一瀬早百合 共著 萌文書林

◇単位認定の方法及び基準

授業中の参加態度 10%、レポート 20%、試験 70%により総合評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

福祉施設に15年間携わった実績を踏まえ、障がいのある方及びその家族の相談・支援の実務者の観点から授業を行う。

子ども家庭支援論

担当 丸林さちや 講義 2年前期
熊澤桂子

◇授業の目的・ねらい

子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解し、保育の専門性を活かした支援の基本を学ぶ。具体的な支援体制を解説し、ニーズに沿った多様な支援を学習する。

◇授業全体の内容の概要

保育者の専門性を活かした子育て家庭への支援とは何かを考え、子どもを中心に位置付けながら保護者と共有することや、地域の中で社会資源を活用する方法を探る。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子ども家庭支援の意義と必要性を理解し、保育者として目の前にいる保護者と何をしていくことが支援につながるのか、考えられることを達成課題とする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性
第2回	子ども家庭支援の目的と機能
第3回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
第4回	子どもの育ちの喜びの共有
第5回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
第6回	保育者の求められる基本的態度と家庭の状況に応じた支援
第7回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
第8回	関係機関との連携と子ども家庭支援の内容と対象
第9回	要保護児童等及びその家庭に対する支援
第10回	子ども家庭支援に関する現状と課題
第11回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第12回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
第13回	支援の実際① 諸外国
第14回	支援の実際② 日本
第15回	まとめ 支援の意義と必要性及び保育者の関わり方について自身の意見を表現する

◇使用資料・参考文献

プリント

『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉 データブック』西野泰之・宮島 清 編集 中央法規

◇単位認定の方法及び基準

試験 70%、課題 30%

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

国立児童総合センターこどもの城に、開館以来29年間勤務。子厚生労働省社会保障審議会児童部会「遊びのプログラム等に関する専門委員会」委員（2年）。東京都放課後児童支援員認定資格研修会講師（5年）の実績を持つ。

社会的養護 I

担当 北川裕子

講義 2年前期

◇授業の目的・ねらい

家庭や地域の養育力の低下や虐待問題などをおさえ、現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。

社会的養護の基本や制度・実施体系について理解する。

◇授業全体の内容の概要

社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。

子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。

◇授業計画

	内 容
第1回	社会的養護とは（理念と概念）
第2回	社会的養護の意義と歴史の変遷①（子どもをとりまく状況）
第3回	社会的養護の意義と歴史の変遷②（児童虐待）
第4回	社会的養護の意義と歴史の変遷③（社会的養護の歴史、児童観の変遷）
第5回	子どもの権利擁護と社会的養護
第6回	社会的養護の基本原則
第7回	社会的養護における保育士等の倫理と責務
第8回	社会的養護の制度と法体系
第9回	社会的養護の仕組みと実施体系
第10回	社会的養護の対象
第11回	家庭養護と施設養護
第12回	社会的養護の専門職とその支援内容
第13回	社会的養護の現状
第14回	施設等の運営管理
第15回	今後の課題、まとめ

◇テキスト

『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』原田旬哉 他編 萌文書林

◇学生に対する評価

授業態度（10%）、提出物（30%）、試験（60%）等による総合評価

教職・保育者論

担当 近喰晴子

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

○教職への意義及び教員への役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）

全体目標：現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

（１）教職の意義

一般目標：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。

到達目標：１）公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。

２）進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。

（２）教員の役割

一般目標：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。

到達目標：１）教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。

２）今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。

（３）教員の職務内容

一般目標：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。

到達目標：１）幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。

２）教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。

３）教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。

（４）チーム学校運営への対応

一般目標：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

到達目標：１）校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

◇授業の概要

- ・視聴覚教材を通し、保育者の役割や職務内容を学ぶ。
- ・保育者に必要とされる資質や能力についてグループ討論をする。
- ・乳幼児の育ちを支援する保育者の役割について学ぶ。
- ・保育の振り返りや自己評価の在り方を学ぶ。
- ・保育者のキャリアパスや資質向上のための取り組みについて学ぶ。
- ・多様な専門性を持つ人材・機関と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性について学ぶ。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション、保育者を目指して
第2回	保育者のイメージ、幼児期に出合った保育者の印象
第3回	児童文化財に描かれた保育者像
第4回	幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育者
第5回	保育者の役割や職務内容
第6回	保育者の専門性とは
第7回	乳幼児の育ちを支える保育者の役割
第8回	乳幼児の生活や遊びを育てる保育者の役割、要保護児童対策地域協議会等との連携
第9回	乳幼児の人権を守る保育者の役割
第10回	保護者支援と保育者の役割
第11回	先達者の保育者論
第12回	保育の振り返りと自己評価
第13回	キャリアパスと資質向上のための取り組み
第14回	保育者の生きる姿勢
第15回	保育の諸問題と保育者のかかわり、児童発達支援センター・小学校等との連携、まとめ 定期試験

◇テキスト

『保育者論』第2版 公益財団法人児童育成協会＝監修／矢藤誠慈郎・天野珠路＝編集 中央法規出版 2017年

◇参考書・参考資料等

『育ての心』（上・下）倉橋惣三著 フレーベル館 2008年

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

定期試験（60％） 授業内レポート（30％） 授業への参加・態度（10％）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

幼児教育・保育心理学Ⅰ

担当 吉田梨乃

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

（１）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程

一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。

到達目標：１）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。

２）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

（２）幼児、児童及び生徒の学習の過程

一般目標：幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

到達目標：１）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。

２）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。

３）幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

◇授業の概要

この授業では、子どもの心身の発達および学習の過程について、代表的な理論を学びます。また、子どもの心身発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解します。

◇授業計画

	内 容
第 1 回	発達とは何か
第 2 回	乳児期の発達
第 3 回	幼児期の発達
第 4 回	児童期の発達
第 5 回	青年期の発達
第 6 回	運動発達
第 7 回	言語発達
第 8 回	認知発達
第 9 回	社会性の発達
第 10 回	動機づけ
第 11 回	集団づくり－理論
第 12 回	集団づくり－技法
第 13 回	学習評価
第 14 回	生涯発達
第 15 回	子どもの主体的な学びを考える 定期試験

◇テキスト

『公認心理師のための臨床心理学－基礎から実践までの臨床心理学概論』
大野博文・奇恵英・斎藤富由起・守谷賢二 編 福村出版 2019 年

◇参考書・参考資料等

授業の中で適宜資料を配布する。

◇学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業で提出するコメントシート（20%）

子ども家庭支援の心理学

担当 丸林さちや
吉田梨乃

講義 2年前期

◇授業の目的・ねらい

初期経験の重要性より始まる生涯発達心理学の基礎を学ぶ。家族・家庭の意義や機能を理解し、現代社会の中での課題に取り組む。子どもの精神保健を理解する。

◇授業全体の内容の概要

子どもと家族を結ぶ生涯発達の視座を取り入れ、子どもだった者が家族を形成していく連続性を、現代社会の課題と共に考えていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

生涯発達の視点から個人と家族の発達を理解する。子どもの精神保健に関わる課題と子育て家庭の現状と課題を捉える。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	生涯発達① 乳幼児期から学童期前期にかけての発達
第2回	生涯発達② 学童期後期から青年期にかけての発達
第3回	生涯発達③ 成人期・老年期における発達
第4回	家族・家庭の意義と機能
第5回	親子関係・家族関係の理解
第6回	子育ての経験と親としての育ち
第7回	子育てを取り巻く社会的状況
第8回	ライフコースと仕事・子育て
第9回	多様な家庭とその理解
第10回	特別な配慮を要する家庭
第11回	子どもの生活・生育環境とその影響
第12回	子どもの心の健康にかかわる問題
第13回	子どもと家族の相互性①
第14回	子どもと家族の相互性②
第15回	まとめ 子ども家庭支援の現代社会における課題を総括する

◇使用テキスト・参考文献

『新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学』白川佳子・福丸由佳 編 中央法規 2019年

◇単位認定の方法及び基準

テスト 80% 課題 30%

子どもの理解と援助

担当 吉田梨乃

演習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

保育実践における子どもの体験や学びの過程を理解し、実践のなかで子どもを理解するための方法について具体的に理解する。また、子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本を理解する。

◇授業全体の内容の概要

保育実践において、実態に応じた子どもを理解する意義を理解し、具体的に理解するための方法を学ぶ。また、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本を理解する。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- 1) 実態に応じた子どもの心身の発達や学びを把握する意義を理解する
- 2) 子どもを理解するための知識を身につける
- 3) 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	保育における子どもの理解の意義
第2回	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開
第3回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり
第4回	子どもを理解する視点① 子どもの生活や遊びと集団における経験
第5回	子どもを理解する視点② 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達、環境構成
第6回	子どもを理解する視点③ 子ども相互のかかわり、葛藤やつまずき
第7回	子どもを理解する視点④ 環境の変化や移行
第8回	子どもを理解する方法① 観察
第9回	子どもを理解する方法② 記録
第10回	子どもを理解する方法③ 省察・評価
第11回	子どもを理解する方法④ 職員間対話・保護者との情報共有
第12回	発達の課題に応じた援助と関わり
第13回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第14回	発達の連続性と就学への支援
第15回	子どもの理解に基づく援助と関わり（試験）

◇使用テキスト・参考文献

『教育相談の最前線－歴史・理論・実践－』 斎藤富由起・守谷賢二 編 八千代出版 2016年

◇単位認定の方法及び基準

授業内の課題（50%）、試験（50%）

子どもの保健

担当 小林光子

講義 1年後期

◇授業の目的・ねらい

子どもの心身の健康増進を図るための保健活動について知識を身に着ける。
子どもの健康状態の把握や病気について理解する。

◇授業全体の内容の概要

乳幼児期の子どものところとからだの健康を保持・増進するために必要な知識を学び身に着ける。乳幼児期の特徴を理解したうえで、乳幼児期に多い疾患（病気）や症状について学ぶ。また、適切な対応方法についても理解を深める。講義の理解を深めるために資料を配布し、画像教材を活用する。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 子どもの発育・発達と保健の意義を理解する
2. 子どもの健康管理の意義と基本的な方法を理解する
3. 子どもの健康増進と子育て支援の意義を理解する
4. 地域保健活動と子育て支援の意義を理解する
5. 子どもに多い病気の症状や標準的な治療・看護について理解する

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	子どもの健康と保健の意義
第2回	地域における保健活動
第3回	子どもの心身の発育・発達と保健（1）
第4回	子どもの心身の発育・発達と保健（2）
第5回	子どもの健康状態とその把握
第6回	子どもに見られる主な症状とその対応（1）
第7回	子どもに見られる主な症状とその対応（2）
第8回	子どもの疾病の予防と適切な対応
第9回	新生児と先天性の病気
第10回	感染症
第11回	アレルギー疾患
第12回	さまざまな小児期の疾患（1）呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患
第13回	さまざまな小児期の疾患（2）腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝性疾患、免疫疾患
第14回	さまざまな小児期の疾患（3）血液疾患、悪性新生物、神経・筋疾患
第15回	定期試験

◇使用テキスト・参考文献

『これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの保健」』鈴木美枝子 編著 創成社
授業の中で参考資料・参考文献等紹介する。

◇単位認定の方法及び基準

授業への参加状況・演習態度（50%）、ワークシートの記述内容（30%）、テスト（20%）により評価する。

子どもの食と栄養

担当 池村多恵子 演習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

学生自身が正しい食生活を送り、健康で生き生きと保育に役立つ実践力を身につけること。

◇授業全体の内容の概要

乳幼児期の食は、体の発育・発達ばかりでなく、心の発達にも大きな役割を果たす。小児の発育・発達と栄養の関係を学び、講義と実習から保育の現場で役立つ実践力を身につける。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

対象となる子どもの状況に適した食生活を提案できる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	（講義）何をどれだけ食べたらいいの？
第2回	（講義）献立作成
第3回	（講義）環境に優しい食生活とは
第4回	（実習）省エネクッキング
第5回	（講義）乳児期の食生活とは
第6回	（実習）離乳食づくり
第7回	（講義）幼児期の食生活とは
第8回	（実習）幼児食とおやつづくり
第9回	（講義）食物アレルギーとは
第10回	（実習）アレルギー食づくり
第11回	（講義）栄養に関する基礎知識1
第12回	（講義）栄養に関する基礎知識2
第13回	（講義）小児の栄養と食生活の意義
第14回	（講義）食育について
第15回	（試験）子どもにとっての食の大切さを理解し、現状における問題点を指摘し、望ましい方向に導けるかをみる

◇テキスト

『子どもの食生活』 ななみ書房

『なにをどれだけ食べたらいいの』 女子栄養大学出版

◇学生に対する評価

①筆記試験 50% ②提出物 10% ③実習への意欲や参加の態度 20% ④授業への取り組み 20%

保育指導法

担当 小林愛子

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

（１）各領域のねらい及び内容

一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

到達目標：１）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
２）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
４）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

（２）保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：１）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
２）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
３）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
４）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
５）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

乳幼児教育における理解を深め、発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

◇授業の概要

保育の原点は子ども理解からであり、乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。その際、保育映像や写真等の視聴覚教材を活用し、できるだけ実際の姿をイメージしながら臨めるようにする。

◇授業計画

	内 容
第1回	保育の基本及び子ども理解から始まる「保育方法」を理解する
第2回	0～2歳の発達の時期に応じた保育方法
第3回	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法① 実際の保育現場の子どもの映像から育ちの違いや発達の連続性を学ぶ
第4回	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法②
第5回	子どもにふさわしい園生活と保育形態及び保育者の役割
第6回	子どもにふさわしい保育のデザインを考える・1日の流れ
第7回	環境を生かした保育の重要性と保育者の役割
第8回	遊びを通しての総合的な指導法 絵本を題材にしたOHPや子どもの作品をポートフォリオ等 ICTを活用した指導の在り方、展開の在り方を学ぶ
第9回	個と集団を生かした保育方法・エピソードを通して学ぶ
第10回	保育計画・実践・評価・指導案を書く 教材及び音楽再生機器等の効果的な活用の検討を含める
第11回	保育計画・実践・評価とその実際 現場における実際の情報機器及び教材の効果的な活用方法、展開の在り方を学ぶ
第12回	配慮を要する子どもへの保育方法
第13回	家庭・地域との連携を生かした保育 写真や映像等の視聴覚教材を活用し、子ども達の理解をより深める為の方法を学ぶ
第14回	保・幼・小の実状と連携
第15回	まとめ 定期試験

◇テキスト

『新しい保育講座⑥ 保育方法・指導法』大豆生田 啓友・渡辺 英則 編 ミネルヴァ書房 2020年

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 フレーベル館 2017 年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017 年

『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』厚生労働省 フレーベル館 2018 年

◇学生に対する評価

試験（40％）・レポート提出と内容・授業態度（60％）を踏まえ、総合的に評価する。

特別支援の理論と方法

担当 吉田梨乃

講義 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解

一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。

到達目標：1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。

2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。

3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。

(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法

一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。

到達目標：1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。

2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。

3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。

4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。

(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援

一般目標：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

到達目標：1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。

◇授業の概要

この授業では、発達障害や知的障害などによって特別の支援を必要とする子どもたちの発達およびその支援の方法について学ぶ。また、障がいはいなくても、経済的な貧困や母国語などの問題により特別の教育的ニーズのある子どもの困難さとその対応についても学ぶ。

◇授業計画

	内 容
第1回	子どもの発達と特別支援教育の理念
第2回	子どもの発達と特別支援教育の制度

第3回	発達障害の理解（１）－自閉スペクトラム障害
第4回	発達障害の理解（２）－ADHD：学習障害
第5回	様々な障害のある子どもの理解
第6回	特別の支援を必要とする子どもの学習について
第7回	「通級による指導」と「自立課題」
第8回	個別指導計画の作成と留意点
第9回	保育者と保護者の連携
第10回	特別支援コーディネーターとの連携
第11回	教室のなかの子どもたち（１）－貧困家庭で暮らす子ども
第12回	教室のなかの子どもたち（２）－児童養護施設で暮らす子ども
第13回	教室のなかの子どもたち（３）－外国籍の子ども
第14回	教室のなかの子どもたち（４）－子どもたちの関係性を結びなおす
第15回	関係性の中での育ち 定期試験

◇テキスト・参考書・参考資料等

『教育心理学の最前線』斎藤富由紀・守谷賢二 編 八千代出版 2019年

◇参考図書

授業の中で適宜資料を配布する。

◇学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業で提出するコメントシート（20％）

教育課程と保育計画

担当 兼重祐子

講義 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

学習指導要領を基準として各学校において構成される教育課程についてその意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

(1) 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。

- 1) 学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針の性格及び位置づけ、教育課程の編成の目的を理解する。
- 2) 学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂の変遷、社会的背景を理解している。
- 3) 教育課程が社会において果たしている役割・機能を理解する。

(2) 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。

- 1) 教育課程編成の基本原則を理解する。
- 2) 教科・領域をまたぎ教育内容を選択し、配列することができる。
- 3) 学期・学年をまたいだ長期的な計画から乳幼児、児童、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を立案する重要性を理解している。

(3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

- 1) 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。
- 2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

◇授業の概要

幼稚園や保育園でその日の保育はどのように決めているのか疑問に思う学生もいるのではないかな。保育者は子どもが小学校就学前まで、目的に応じて計画を作成し、実践していく。このような計画を幼稚園では「教育課程」、保育園では「保育の計画と評価」という。

教育課程と保育計画では、教育・保育計画を作成する際、発達過程を押さえ、見通しを持った教育・保育が展開されるよう記入することを学んでいく。月間指導計画、週案の書き方を学ぶと同時に5領域が保育にどう作用しているのかを考えていく。尚、「自分で幼稚園を開園してみよう」のグループ発表で優勝したチームの年間指導計画、月案、週案を作成する。

◇授業計画

	内 容
第1回	①オリエンテーション ②教育課程とは何かについて学ぶ。 ③教育課程の編成について知る。
第2回	「自分で幼稚園を開園してみよう」(1) ①カリキュラム・マネジメントとは何か ②保育方針、園目標、園の特徴等、どのような幼稚園を開園したいのかグループで話し合う。
第3回	「自分で幼稚園を開園してみよう」(2) ①保育時間、年間行事、預かり保育等を考えながら作ってみる。②カリキュラム・マネジメントを基にし、見通しを持って作業を行う。
第4回	「自分で幼稚園を開園してみよう」(3) ①パンフレットの作成を行う。 ②カリキュラム・マネジメントの表に今日の作業状況と振り返りを書きこむ。
第5回	「自分で保育園を開園してみよう」(4) ①グループの発表を通し今までの学びを確認する。②相手にわかりやすく発表する力を身につける。
第6回	「自分で保育園を開園してみよう」(5) ①グループ発表を通し今までの学びを確認し、優勝チームを決定する。 ②カリキュラム・マネジメントのまとめを行う。
第7回	保幼小の連携の理解 ①スタートカリキュラムとは何か。 ②保幼小連携のDVDを見て更に理

	解を深める。
第8回	保育園における行事の位置づけについて 保育行事 誕生会、ひな祭り、端午の節句を準備から実施、その後までどのようなプロセスで行っているのか流れを用紙にまとめる。
第9回	保育行事（1） 節分、クリスマス会、おもちゃつきを準備から実施、その後までどのようなプロセスで行っているのか流れを用紙にまとめる。
第10回	保育行事（2） お月見、じゃが芋ほり、お泊まり保育を準備から実施、その後までどのようなプロセスで行っているのか流れを用紙にまとめる。
第11回	年間指導計画の作成（1） ①長期の授業計画の作成と留意事項について学ぶ。 ②優勝チームの教育理念に基づき年間指導計画を作成する。
第12回	年間指導計画の作成（2） ①保育行事を柱にしながら指導計画作成の続きを行う。 ②指導計画の作成から連続性のある保育について学ぶ。
第13回	教育実習の振り返りと短期指導計画 ①保幼小の連携グループディスカッション及び発表(6月の教育実習から)を行う。②短期の授業計画の作成と留意事項について学ぶ。
第14回	月案の作成 ①月初めから月末にかけて流れのある保育を考えながら作成する。②作成することにより領域がからみあうことに気付く。
第15回	週案の作成 ①先週作成した月案に基づき、流れのある保育を捉えながら作成する。 ②雨天時の保育も週案に組み込む。

◇テキスト

『改訂版 保育方法の基礎』柴崎正行編 わかば社 2018年

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

授業中の態度（20％）・提出物（40％）・グループ発表（40％）等により総合評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

保育内容総論

担当 兼重祐子

演習 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育、保育園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対象的で深い学びが実践する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

- (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された幼稚園教育、保育及び基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、保育所保育指針における保育の基本、各領域のねらい及び内容、全体構造を理解している。
 - 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園、保育園における評価の考え方を理解している。
 - 4) 領域ごとに乳幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
- (2) 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
 - 1) 乳幼児の知識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 - 2) 各領域の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
 - 3) 指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 - 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
 - 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

本講義では『保育所保育指針』に示されている養護・教育及び『幼稚園教育要領』の5領域の変遷を領域毎に調べ、グループ発表を行う。現今の養護、5領域を要約する作業を行い少しずつ自分の言葉でまとめられる力を身に付けていくとともに、領域のねらい及び内容とつながりに気づき、「子どもは遊びを通して育つ」ことを確認していく。授業の後半は事例問題から子どもへのアプローチ方法を学んでいく。また、領域が絡み合うことを押さえた上で保育環境を考えながら模擬保育を行い、子ども達の興味・関心を高める為の情報機器教材の活用方法とその意図の理解及び指導法を身につけていくことを目的として行う。模擬保育の経験から指導案の構成を理解するとともに振り返りを行い、改善していくことの必要性を知る。

◇授業計画

	内 容
第1回	①オリエンテーション ②『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』の基本及び保育の内容を確認する。 ③『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』のDVDを観て更に理解を深める
第2回	養護、5領域の発表準備を行う。(グループワーク)
第3回	養護から①保育における養護の歴史について グループ発表。②『保育所保育指針』「養護」の内容を理解し要約する。
第4回	領域の健康から ①保育における健康の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』「健康」の内容を理解し要約する。 ③『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』の健康の内容に違いがあるか確認してみる。
第5回	領域の人間関係から ①保育における人間関係の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』「人間関係」の内容を理解し要約する。 ③『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』の

	人間関係の内容に違いがあるか確認してみる。
第6回	領域の環境から ①保育における環境の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』「環境」の内容を理解し要約する。③『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』の環境の内容に違いがあるか確認してみる。
第7回	領域の言葉から ①保育における言葉の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』「言葉」の内容を理解し要約する。③『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』の言葉の内容に違いがあるか確認してみる。
第8回	領域の表現から ①保育における表現の歴史について グループ発表。 ②『保育所保育指針』「表現」の内容を理解し要約する。 ③『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』の表現の内容に違いがあるか確認してみる。
第9回	保幼小の連携について ①保幼小の連携の背景をつかむ。 ②スタートカリキュラムについて学ぶ。 ③保幼小連携の取り組みのDVDを観て学びを深める。
第10回	模擬保育の発表会 ～手遊び、歌唱指導を中心に～（子ども達の興味・関心を高める情報機器教材を活用する保育者の意図の理解と指導法の試みを含める）
第11回	模擬保育の発表会～造形活動を中心に～（子ども達の興味・関心を高める情報機器教材を活用する保育者の意図の理解と指導法の試みを含める）
第12回	模擬保育の発表会～パネルシアター・エプロンシアター・ペープサートを中心に～
第13回	模擬保育の発表会～室内、戸外で行う運動遊びを中心に～
第14回	模擬保育の発表会～素話、絵本、紙芝居を中心に～（子ども達の興味・関心を高める情報機器教材を活用する保育者の意図の理解と指導法の試みを含める）
第15回	模擬保育の発表会～簡単にできるゲームを中心に～

◇テキスト

『改訂版 保育内容の基礎と演習』柴崎正行 編著 わかば社 2018年

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針解説 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2018年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

授業中の態度、積極的参加（10％）グループ発表（30％）提出物（20％）模擬保育（40％）の発表により総合評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

保育内容演習Ⅰ（健康）

担当 熊澤桂子

演習 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領に提示された幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 - 2) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 - 4) 領域「健康」において幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び、小学校の教科等とのつながりを理解している。
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育内容を計画し、その方法を身につけることで、実践力を養う。
 - 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等と視野に入れた保育構想の重要性を理解している。
 - 2) 領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器、及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
 - 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る。
 - 4) 模擬保育との振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。
 - 5) 領域「健康」の特性に応じた子どもを取り巻く現代社会の課題や、保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容の取扱いについて理解する。そして、子どもの健康な心身を育くみ、子ども自らが健康で安全な生活を主体的につくり出す力を養うために、必要な知識・技術を身につける。また、乳幼児期の健康に関わる生活習慣の習得や、心身の発達・発達、運動の発達の特徴を理解し、適切な指導方法を身につける。

模擬保育においては、教材及び音楽再生機器等の効果的な活用を検討したり、振り返りの際に ICT を活用し視覚化したりなどしながら、学生同士が意見を交換する等、協議する機会を設ける。

◇授業計画

	内 容
第1回	保育における「健康」とは何か～幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容の理解
第2回	基本的生活習慣の形成を支える援助～食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助(配慮を必要とする子どもへの援助を含む)
第3回	健康管理と安全能力を育む援助～健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助(リスクとハザードの確認)(配慮を必要とする子どもへの援助を含む)
第4回	健康な心身を育む保育の構想(保育計画の立案①)～健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導の計画
第5回	健康な心身を育む保育の構想(教材研究①)～健康指導、安全指導の実際生活習慣(手洗い・うがい等)の正しい方法をビデオ視聴後、ICTを活用し子ども同士が手洗いの場면을撮影し合い、比較しながら学ぶ指導案の作成
第6回	健康な心身を育む保育の実践(模擬保育①)～幼児の動機づけや意欲などを配慮した健康指導、安全指導のあり方(第5回の指導案をもとに保育者・子ども役で、ロールプレイを実施)

第7回	健康な心身を育む保育の評価と課題①～幼児理解と保育の視点を基盤とした評価(ICT活用の効果についても、グループで振り返る)
第8回	多様な動きの経験を促す援助～園庭遊び等、外遊びや自然に親しむなどの遊び体験や、その活動と連動した生活習慣からの様々な経験を促す環境構成と援助子どもたちが考えた「鬼ごっこ」を実際に行ない、その場面をデジタルカメラ等で撮影する。その後、子どもと撮影したものを視聴することを想定し、子どもの多様な動きを促進するための保育者の言葉掛け、関わり方を考察する。
第9回	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助～現在社会における子どもの健康の課題と、子どもの特性を踏まえた援助のあり方
第10回	健康な心身を育む保育の構想(計画の立案②)～運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導園庭などを活用したサーキットづくりを子どもと共に設定・実施することを想定した指導案を考える。
第11回	健康な心身を育む保育の構想(教材研究②)～運動遊びの指導の実際 園庭遊具や園庭でのボール・なわ等を使用した遊びを子どもたち自身がICTを使用し、取材することを想定し「遊びの場面」と「遊びの楽しさ」を語る映像づくりの指導方法を考察する。また、その映像を子どもと共に視聴し、運動遊びを導き出す手順を考える。
第12回	健康な心身を育む保育の実践(模擬保育②)～幼児の動機づけ、意欲等に配慮した運動遊びの指導方法(考察した運動遊びの実際と、それを学生同士で撮影する。)
第13回	健康な心身を育む保育の評価と改善②～幼児理解と「運動遊び」の保育実践のふりかえりと評価
第14回	幼児期に育まれる健康な心身と、就学後の生活等に生かされる力～「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と小学校教科との関連
第15回	まとめ 領域「健康」をめぐる現代社会での課題と保育のあり方～家庭、地域社会等、幼児を取り巻く環境からの健康の課題と、求められる保育 定期試験

◇テキスト

『演習保育内容 健康—基礎的事項の理解と指導法—』河邊貴子・吉田伊津美 編著 2019年

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇参考書・参考資料等

- ・授業において適時、参考資料を配布する。
- ・幼児の運動遊びのDVD等映像の使用あり。

◇学生に対する評価

- ①事前学習を含む、授業への取り組む姿勢、意欲や態度(グループ活動への意欲、取り組み等)(40%)、
- ②指導計画の立案、模擬保育の実践と自己評価(レポート、提出物の評価)(30%)
- ③講義内容等に関する試験(30%)

保育内容演習Ⅰ（人間関係）

担当 鶴田一女 演習 2年前期
室井真紀子

◇一般目標及び到達目標

- (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域の全体構造、領域「人間関係」のねらい、内容を理解している。
 - 2) 領域「人間関係」のねらい、内容を踏まえ、自律心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科書等とのつながりについて理解している。
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」の具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
 - 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。
 - 2) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用する等の留意点を理解している。
 - 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 - 4) 模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている
 - 5) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

幼稚園教育要領、領域「人間関係」に示されているねらい及び内容について、保育場面の映像資料等、事例を丁寧に読み解き幼児の心情を理解しながら幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。また、グループワークやロールプレイとその振り返りを通して、発達にふさわしい保育の実現のために情報機器を活用することも考えられるようにしながら、実践する方法を身に付ける。

◇授業計画

	内 容
第1回	幼稚園教育要領における5領域と領域「人間関係」
第2回	領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い
第3回	教師との信頼関係の形成、幼稚園生活における安定感の援助
第4回	心身の発達と自立心を育む援助
第5回	子ども同士のいざこざと教師の援助
第6回	自己発揮と自己抑制、折り合いをつけることについて
第7回	生活におけるきまりと葛藤、教師の援助
第8回	ルールのある遊びと教師の援助
第9回	個と集団の育ちを考える

第10回	協同的な活動で育ち合う長期的な保育の展開
第11回	行事のねらいと協同的な活動の指導
第12回	個の育ちと共同性の育ち
第13回	領域「人間関係」と幼小の接続
第14回	地域の中における幼稚園のあり方
第15回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題 定期試験

◇テキスト

『保育内容「人間関係」』森上史朗 他著、ミネルヴァ書房

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

定期試験60%、演習内容20%、レポート20%

保育内容演習 I (環境)

担当 近喰晴子

演習 2 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

(1) 各領域のねらい及び内容

一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。

到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。

2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。

3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。

4) 領域「環境」に幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や、小学校の教科等とのつながりを理解している。

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。

2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。

3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。

5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

- ・領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
- ・領域「環境」に関する素材や教材に親しみ、指導上の留意点を理解する。
- ・領域「環境」とPDCAサイクルについて理解する。
- ・身近な環境と保育実践上の現代的課題について理解する。
- ・指導案作成や模擬保育では、効果的な形式や提示の方法の工夫として、情報機器の活用を試み、保育の構想への活用の在り方を理解する。

◇授業計画

	内 容
第1回	保育の基本としての「環境による保育」と、領域「環境」の考え方について学ぶ
第2回	領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱いなどについて学ぶ
第3回	幼児期にふさわしい環境と環境構成について映像教材を通し学ぶ
第4回	幼児にとって身近な生き物（カブト虫やザリガニ等）の生態、飼育方法、かかわり方などについて絵本や図鑑、情報機器の特性を活かし調べる

第5回	幼児にとって親しみやすい植物（朝顔や二十日大根）の栽培方法について、図鑑や情報機器を活用し調べる
第6回	数量・図形等にかかわる活動の実際について学ぶ
第7回	自然事象や社会事象にかかわる活動の実際について学ぶ
第8回	地域の自然環境を取り入れた活動の実際について学ぶ
第9回	地域の文化、社会資源、施設等を活用した保育の実際について学ぶ
第10回	幼児期の発達に即した計画の作成をする
第11回	身近な素材や自然物の収集と指導計画の作成をする
第12回	身近な素材や自然物を活用した保育の実際（模擬保育）
第13回	保育実践の振り返りとドキュメンテーション（映像・情報機器の活用）
第14回	領域「環境」評価の視点
第15回	領域「環境」に対する現代的課題（環境、インクルーシブ保育） 定期試験

◇テキスト

『子どもの育ちを支える子どもと環境』浅見均・田中正浩 著 大学図書出版 2014年

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

定期試験（50%）、授業時に提出するレポート（30%）、授業の参加・態度（20%）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

保育内容演習Ⅰ（言葉）

担当 藤村公三郎 演習 2年前期

◇授業の全体目標

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域とも関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

◇一般目標及び到達目標

- (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。
 - 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 - 2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 - 4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
- (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
 - 1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 - 2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
 - 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
 - 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
 - 5) 領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

幼稚園で過ごす子どもたちの様子を描いた映像を視聴したり保育現場等において参観したりすることにより、乳幼児に特徴的な「言葉」の様相・実態を把握する。また、園の許可を取り、言葉のやりとりを録音したり、動画を撮ったりして子どもの変化、発達の度合いを捉える。

「絵本」「紙芝居」「言葉遊び（ゲーム）」などの実践的な保育技術習得をねらいとして、自分たちで音声や映像を記録しその向上に役立てるなど、学生自身がICTの特性や使用方法等を理解し活用できるように、必要に応じてICTの活用を試みる。

その際、少人数のグループを単位として取り組み、グループディスカッションやグループワークをなどの機会を設け、協働的に学ぶ過程を大事にする。学生自身の「主体的・対話的深い学び」が実現されるよう工夫する。

◇授業計画

	内 容
第1回	保育における「言葉」とは 幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容について「キーワード」を出し合い、その内容や構造について理解を深める。特に保育者の援助は言葉が生まれる基盤を幼児と共に丁寧に形成していく点にあることを確認し合う。
第2回	子どもの言葉の発達過程（1） 言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋について、視聴覚教材により、保育者と子どもの表情や身振りなどの非言語的表現による関わりや、信頼関係の構築をねらう場面を捉え、グループで検討し合い、発達に則した援助の在り方を学ぶ。
第3回	子どもの言葉の発達過程（2） 「いま、ここ」を越えて広がる世界と言葉の発達について、どんな言葉が文字になっているか、絵本や物語を使つての活動を、実際に幼稚園を見学したり映像で確認し合い、言葉の豊かさ、伝える楽しさをグループディスカッションし、全体に発表することで、言葉の発達とその援助の在り方を理解する。
第4回	言葉を育む環境構成と援助（1） 保育の事例や映像に描かれた様子を参考にして、その事例、場面を、保育者と子どもに分かれてグループでロールプレイを行い、その振り返りをグループで

	イスカッションし、全体に発表し、聞いている時に気持ちが良かったことをまとめ発表する。「聞きたい」、「話したい」意欲を育む援助の視点を学ぶ。
第5回	言葉を育む環境構成と援助（2） 「生活に必要な言葉の習得」について4つ事例を提示し、それぞれにテーマを設ける。個々に選び指導案を書き、グループでこどもたちの言葉の習得に必要な援助の仕方について話し合い、ICTを活用して発表することを通して、援助の仕方を学び合う。
第6回	言葉を育む環境構成と援助（3） 映像教材や事例を使い、気持ちのすれ違いや気持ちが伝わらないもどかしさをもった子ども(非言語表現も含め)たちの活動を見る。その改善の援助について考え、グループに分かれロールプレイを行い、グループディスカッションをする。特に、演技者それぞれの言葉の使い方の良さについて留意する。
第7回	言葉を豊かにする環境構成と援助（1） ～言葉による丁寧な伝え合いを育む援助 保育者と子どもの1対1のやりとりの場面を視聴して、その保育者の意図についてグループディスカッションする。1対1で対応する具体的なケースをグループごとに想定し、指導案を作成する。指導案をパワーポイントで写しながら、模擬保育を行い、言葉の使い方の良さ、改善すべき点を話し合いその視点を身に付ける。
第8回	言葉を豊かにする環境構成と援助（2） ～文字などで楽しさを伝える援助 事例や幼稚園の案内板・掲示物の写真を見て、図柄や話し言葉から書き言葉（文字）への発達段階を理解する。環境も少数の親しい特定者から、不特定の一般者に変化している。この「一次のことば」と「二次のことば」をつなぐ保育者の援助の方法を理解し、身に付ける。
第9回	子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財 児童文化財「絵本」「紙芝居」等の保育の場での活かし方について学び合う。具体的な作品に出合いながら、それらの基礎的知識と幼児の発達にとしての児童文化財の意義について確認する。その作品を実際に演じ、自分たちで自分たちの読み聞かせや紙芝居の映像記録をとり、方法についての評価や言葉に対する感覚の豊かさや、言葉の楽しさ美しさについて取り上げ話し合いその視点を豊かにする。
第10回	言葉に対する感覚を豊かにする実践 言葉遊び（しりとり・言葉集めなど）をグループを作り実際にを行い、子どもたちが言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにするにはどういうことに気を付けたらよいか話し合う。併せて、それを保育の中にどう取り入れたらよいか、時、場所、方法などを出し合いグループディスカッションをする。具体的な活動と上記のまとめ発表し合い実践力を養う。
第11回	子どもの言葉を育む保育の実践 模擬保育に向けての保育観察と教材研究を行う。発達段階と言葉、言葉に対する保育者の援助、言葉の豊かさについて幼稚園を参観する。テーマごとに分かれてグループディスカッションをする。模擬保育に向けて必要に応じてICTの活用を試みながら自分のテーマ・課題をまとめ、全体に発表し共有する。
第12回	子どもの言葉を育む保育の構想 前回のまとめを参考に、「絵本」「紙芝居」など具体的な取り組みを想定した指導案の作成を行い、グループディスカッションを行う。各グループで一つ選び、ICTを活用して発表し合う。各グループの良さを共有する。また、その運営の仕方を学ぶ。
第13回	子どもの言葉を育む保育実践についての「評価」について 前回までの活動を受け、部分模擬保育をグループの代表が行なう。保育者、子ども役、参加者に分かれそれぞれから意見を出し合う。改善点や良かったことをまとめ、その場でICTを活用し発表し、同時に資料を配布し、結果を共有する。
第14回	子どもの言葉を育む保育の評価と改善 事前に以下のテーマを示して置き、「評価内容」、「評価場面とその方法」、「ねらいと評価」、「評価の伝達」等のテーマを事前に示して置き、テーマごとにグループディスカッションを行い、プレゼンテーションを行う。全体でそれら进行评估し合う。「PDCAサイクル」、「指導と評価の一体化」について学ぶ。
第15回	まとめ 領域「言葉」にかかわる現代的課題として、人間関係の希薄化などからくる言葉の貧しさや言葉遣いの変容などについて学習する。講座受講の振り返りと学習の確認。定期試験

◇テキスト

『事例で学ぶ保育内容領域』無藤隆 監修 編集代表 高須裕子

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

授業への参加度（50%）、提出課題（20%）、最終レポート（授業での学びの振り返りと今後の展開）（30%）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

中学校教諭・校長（30年）・教育委員会にて教育相談員（2年）の実績を持つ。また、文部科学省学習指導要領解説作成協力者（3年）・文部科学省中央指導者研修会講師（4年）、学童保育所（4年6ヶ月）にてアドバイザーや施設長代理としての実績を持つ。

保育内容演習Ⅰ（表現）

担当 嶋原晶子

演習 1年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感など様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、実践する力を身に付ける。

- （１）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。
 - １）幼稚園教育要領に提示された幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
 - ２）領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
 - ３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
 - ４）領域「表現」において幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び、小学校の教科等とのつながりを理解している。
- （２）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。
 - １）幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
 - ２）領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器、及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。
 - ３）指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る。
 - ４）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。
 - ５）領域「表現」の特性に応じた子どもを取り巻く現代社会の課題や、保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

◇授業の概要

「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」領域「表現」のねらいと内容に沿って、乳幼児の豊かな成長のために、具体的な実践を体験しながら、相互に学び合い、乳幼児の表現活動を豊かに発展させるための知識・技能・表現力を身につける。

◇授業計画

	内 容
第１回	領域「表現」の狙い及び内容について、乳幼児の表現する姿と関連付けることを通して理解する
第２回	様々な「表現」を確認し、具体的に理解を深め、幼児の表現活動の指導法について考える
第３回	表現活動の事例やレポートなどを情報機器を活用して調査し、その動向や課題を知る
第４回	インクルーシブ保育における表現活動や遊びについて、内外の事例から学び保育実践へつなげる手立てを考える
第５回	「美しいもの（形・色・音・匂い・・・）」を探し、各自『美しいもの図鑑』を作成する
第６回	『美しいもの』と表現活動のコラボレーションについて検討する
第７回	身体を使う表現活動を体験し、その面白さに気づき、留意点を考察する

第8回	自然物を使った表現活動を体験し、その面白さや年齢・発達毎の発展方法や留意点を考察する
第9回	身近な素材・廃材を使った表現活動を体験し、その面白さや年齢・発達毎の発展方法や留意点を考察する
第10回	表現活動を発展させるためのドキュメンテーションやポートフォリオ等、ICTを活用した指導計画や学習記録、幼児にわかりやすい教材や提示資料作成の在り方を学ぶ
第11回	幼児期の表現活動と小学校の教科（体育・音楽・図画工作・生活）と学びの連続性について具体的に学ぶ
第12回	総合的な表現方法を実践するため、実習等の体験を持ち寄りながらグループ毎に指導案を作成する
第13回	グループ毎に作成した指導案に沿った教材研究をドキュメンテーションやポートフォリオ等、ICTの活用も考慮して深め合う
第14回	グループ毎に立案・準備した指導案に沿って、保育シミュレーションを行い、相互に補い合い、学び合う
第15回	今までの学びと総合的な表現活動の実践を通じて、保育の場における「表現」について考察する 定期試験

◇テキスト

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年
『保育所保育指新 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年（他教科と共有）

◇参考書・参考資料等

『月刊こどものともセクション12ヶ月』こどものとも社 2020年

◇学生に対する評価

授業への参加姿勢や態度（30%）、作品や保育シミュレーションの発表（30%）
各国の授業内容をまとめたポートフォリオの提出（40%）

乳児保育Ⅰ

担当 兼重祐子

演習 1 年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①乳児保育の意義・目的、現状と課題を理解する。
- ②3歳未満児の発達を踏まえ、保育者の関わり方や保育上の留意点を学ぶ。
- ③乳児保育における職員間の連携、保護者や地域の関係機関について理解する。

◇授業全体の内容の概要

乳児とは児童福祉法において1歳未満児の事とされているが、本教科では3歳未満児を対象としている。人間形成の初期にあたる乳児期という発達過程における生活、発達の援助方法、保育内容等、多様な角度から理解を深めていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

保育実習等、これから経験していくことを踏まえながら乳児保育の専門的な知識と技術の基礎をつくる。

◇授業計画

	内 容
第1回	①オリエンテーション ②乳児保育の意義・目的について ③保育所における乳児保育・保育所以外の児童福祉施設について
第2回	①乳児保育の歴史的変遷と保育内容について
第3回	①乳児保育の役割と機能について ②乳児保育における子育て支援と今後の課題 ③子育て支援のDVDから理解を深める
第4回	(1)年齢別発達と保育内容 0歳児前半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる ③0歳児前半のDVDから理解を深める
第5回	(2)年齢別発達と保育内容 0歳児後半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる ③0歳児後半のDVDから理解を深める
第6回	(3)年齢別発達と保育内容 1歳児前半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる ③1歳児前半のDVDから理解を深める
第7回	(4)年齢別発達と保育内容 1歳児後半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる ③1歳児後半のDVDから理解を深める
第8回	(5)年齢別発達と保育内容 2歳児前半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる ③2歳児前半のDVDから理解を深める
第9回	(6)年齢別発達と保育内容 2歳児後半 ①発達を踏まえた保育者の援助・関わり方 ②保育環境や保育上の留意点を押さえる ③2歳児後半のDVDから理解を深める ③3歳以上児の保育に移行する時期の保育について
第10回	中間テスト
第11回	乳児クラスの日 ①デイリープログラムとは ②慣らし保育の進め方について ③複数担任と保育場面での役割分担について
第12回	乳児期にふさわしい保育環境とは ①生活の場面・遊びの場面から
第13回	乳児の遊びと生活 ①環境を踏まえた遊びや玩具理解
第14回	手作り玩具の作成
第15回	手づくり玩具の発表会

◇使用テキスト・参考文献

『MINERVA はじめて学ぶ保育 第7巻 乳児保育』馬場耕一郎 編著 ミネルヴァ書房 2017年

◇単位認定の方法及び基準

授業中の積極的参加（20%）・課題発表（30%）・中間テスト（50%）により総合評価をする。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

乳児保育Ⅱ

担当 木村明子

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえつつ、援助や関わりの基本的な考えかた・取り組みの実践について理解し、優れた乳児保育実践者としての資質を養う。

◇授業全体の内容の概要

3歳未満児の成長発達の基本、および、その生活や人との関わりについて、映像や事例等を通して理解する。また、保育所保育指針にある保育士の役割を踏まえ、乳児保育実践者としての資質について考察を深める。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

保育所保育指針に示された「乳児・1歳以上3歳未満児」の保育に関わるねらい及び内容を、映像や見学等の実体験を通して理解し、発育・発達および成育環境に対する理解・配慮等も踏まえ、短期・長期・個別の指導計画立案する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	赤ちゃんの不思議に触れよう。「乳児保育Ⅰ」の基礎的学びを振り返り、学習意欲を高める。
第2回	指針を自分の座右の書としよう。「保育所保育指針」をていねいに読む。重要用語等確認も。
第3回	発達を虫の目・鳥の目で見よう。心と体の発達をこまやかに見つめ、俯瞰するまなざしも。
第4回	保育者の関わり。「応答性」に見る、子どもの権利を尊ぶ保育の基本的姿勢について。
第5回	保育者の関わり。「担当制」等に見る、乳児保育ならではの保育上の工夫。
第6回	乳児期の生活。基本的生活要素「食事」「排泄」「睡眠」への理解を深める。
第7回	乳児期の生活。「清潔」「衣服着脱」などから、「基本的生活習慣の獲得」を考える。
第8回	乳児期の「遊びと学び」（前）。乳児期ならではの成長を支える環境を知り、視点を深める。
第9回	乳児期の「遊びと学び」（後）。園見学等を通し、配慮十分な乳児保育環境の実際を知る。
第10回	「安全・安心」な人的物的保育環境。乳幼児突然死症候群（SIDS）、水関連事故等の抑止。
第11回	現代的・社会的な問題に目を向けよう。「待機児童」「虐待」「孤育て」。子育て支援のこれから。
第12回	読み返したくなる記録を書こう。乳児期の保育の質を向上を期した「記録」のありかた。
第13回	保育の計画。計画～実践・評価・改善～再度計画立案の過程を踏まえつつ、年齢別に立案。
第14回	乳児期ならではの遊びと玩具。子どもたちから学ぼう～玩具の選び方、手作りのポイント。
第15回	まとめ。乳児保育の現状と課題。

◇使用テキスト・参考文献

テキスト：『保育所保育指針解説 平成30年3月』

その他のテキストは、2020年7月に指定。

参考書：『発達がわかれば子どもが見える』乳幼児保育研究会 編著、他

『0・1・2歳児クラスの現場から－日本が誇る！ていねいな保育』大豆生田啓友・おおえだけいこ：著 小学館

◇単位認定の方法及び基準

授業への意欲・態度、グループワークなどへの参加状況、レポートおよび期末テストの成績から総合的に評価する。

子どもの健康と安全

担当 小林光子

講義 2年前期

◇授業の目的・ねらい

保育実践していくために必要な知識や技能を身に付ける。
具体的な事例をあげながら考察し、対応方法など、緊急時に行動できる力を身に付ける。

◇授業全体の内容の概要

乳幼児期の子どもが健康で安全に過ごすために必要な知識を学び深める。集団生活の場で、子どもが健康で安全に過ごすために保育者として保育環境の整備や病気やけがの予防と対応について演習を通して身に付ける。演習内容に応じたワークシートを配布する。授業内容と自己学習によりワークシートを完成させる。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 乳幼児に配慮すべき保健、安全について理解し、実践できる。
2. 乳幼児の安全な生活、病気やケガの予防と対応について理解できる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	保健計画・健康教育
第2回	生理機能の発達と測定の実際
第3回	健康観察 受け入れ時の観察、保護者との連絡、情報共有
第4回	3歳未満児の健康管理
第5回	体調不良児への対応
第6回	感染症対策（1）予防策・集団保育の健康管理
第7回	感染症対策（2）発生時・後の対応
第8回	事故防止（1）保育環境の整備
第9回	事故防止（2）園外保育・異年齢保育・行事等の留意点
第10回	応急処置
第11回	災害時の対応（1）避難訓練と年齢別配慮
第12回	災害時の対応（2）地震、火災、水害時の緊急対応
第13回	地域や保護者との連携
第14回	慢性疾患や障害を持つ乳幼児の健康管理
第15回	救命処置

◇使用テキスト・参考文献

『これだけはおさえない！「子どもの健康と安全」』鈴木美枝子 編著 創成社

◇単位認定の方法及び基準

授業への参加状況・演習態度（50%）ワークシートの記述内容（30%）、テスト（20%）により評価する。

障害児保育

担当 林 典子

演習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

保育者として現場で働くために必要である、障害児保育の知識と基本的な考え方を身につける。一人ひとりの特性や課題を理解し、援助の方法や環境の工夫、個別支援計画の作成、保護者への支援、関係機関との連携や地域ネットワークについて学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

障害のある子どもにとって、人間形成の土台を築く乳幼児期に適切な支援がなされることはたいへん重要である。様々な障害について理解を深め、一人ひとりの発達特性や興味・関心のあることを捉え、支援計画の作成や援助の具体的な方法、家庭への支援や関係機関との連携・協働について学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	障害の概念と対象 障害があるということ
第2回	障害児保育の歴史的変遷 障害児保育の発展と充実
第3回	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助
第4回	肢体不自由児の理解と援助
第5回	知的障害児の理解と援助
第6回	発達障害児の理解と援助Ⅰ
第7回	発達障害児の理解と援助Ⅱ
第8回	障害のある子どもの発達と環境 個々の発達を促す生活と遊び
第9回	子ども同士のかかわりと育ち合い インクルージョンの理解
第10回	重症心身障害児、医療的ケア児、特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第11回	指導計画、個別支援計画の作成 計画の立て方と合理的配慮
第12回	保護者や家族への支援 障害のとらえ方とこころの過程
第13回	関係機関との連携 巡回相談と地域の専門機関
第14回	小学校との連携 障害のある子どもの就学に向けての支援
第15回	障害児保育の動向と展望 障害児に関する制度の変化と地域ネットワーク（まとめ）

◇使用テキスト・参考文献

『基本保育シリーズ 障害児保育』西村重稀・水田敏郎編集 公益財団法人 児童育成協会 監修 中央法規

◇単位認定の方法及び基準

授業中の参加態度 10%、レポート 20%、試験 70%により総合評価する。

社会的養護Ⅱ

担当 熊澤桂子

演習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①子どもの権利擁護と、社会的養護の基本的な考え方を知る。
- ②施設養護、家庭養護における具体的な支援方法や考え方を学ぶ。
- ③今後の社会的養護のあり方と、その課題や展望について学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

子どもの権利擁護を視点に、社会的養護で育まれる子どもの支援方法を知る。特に、子どもの最善の利益を考え実践する方法や、入所する子どもの特性を捉え、保育士として求められる子ども・親への関わり方を事例等で学習する。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ①社会的養護の基本的な内容が理解でき、子どもの置かれている現状、特性等がわかる。
- ②社会的養護に関わる相談援助の方法・技術を理解している。
- ③子どもへの不適切な関わりを防ぎ、その子どもや家庭支援について理解している。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	子どもの権利擁護
第2回	社会的養護における保育士等の倫理綱領、及び責務
第3回	施設養護の特性及び実際Ⅰ（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設）
第4回	施設養護の特性及び実際Ⅱ（障がいのある子どもの施設）
第5回	家庭養護の特性及び実際（里親、ファミリーホーム、養子縁組制度等）
第6回	社会的養護におけるケアマネジメント
第7回	自立支援計画とその作成方法
第8回	日常生活支援に関する事例検討と分析（障がいのある子ども等を例に）
第9回	心理的支援に関する事例検討と分析（被虐待児童等を例に）
第10回	自立支援に関する事例検討と分析（退所後の児童のアフターケアを中心に）
第11回	記録の方法と自己評価（ケースカンファレンスへの取り組み）
第12回	社会的養護における保育士の役割
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク
第14回	施設の小規模化と地域連携、その課題と展望
第15回	まとめ：社会的養護の課題と展望（より家庭的な養護をめざして）

◇使用テキスト・参考文献

『児童の福祉を支える 社会的養護内容』吉田眞理 編著 萌文書林

『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2019』中央法規（1年時「子ども家庭福祉」で使用了もの）

◇単位認定の方法及び基準

授業での事例等への取り組み 30%、課題の提出 20%、試験 50%

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

国立児童総合センターこどもの城に、開館以来29年間勤務。子厚生労働省社会保障審議会児童部会「遊びのプログラム等に関する専門委員会」委員（2年）。東京都放課後児童支援員認定資格研修会講師（5年）の実績を持つ。

子育て支援

担当 木村明子

演習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育士が行う子育て支援の意義や、具体的な内容を理解する。
- ②子育て家庭の保護者のニーズを理解し、その子どもや家庭に、具体的な相談、助言等を支援する方法を実践的な例や、ロールプレイ等を通じて学ぶ。
- ③様々なニーズを抱える子育て家庭について、その具体的な支援方法を事例等で具体的に理解する。

◇授業全体の内容の概要

今日、仕事と子育ての両立による悩みは、保護者のみで解決が難しい現状がある。そこで、子どもの健全育成を実践する専門職として保育士が行う子育て支援の方法、地域社会を視野に入れた子育て支援の展開や技術を、事例等を通し実践的に学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ①保育士が行う子育て支援の活動内容、支援について理解している。
- ②保護者の悩みや家庭の背景を把握し、保護者と共に子どもの育ちの支援方法を考えられる。
- ③社会資源の活用や他機関との連携を通じて、子育て支援が展開できることを理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	子どもの育ちの支援と、保育士が行う子育て支援の意義
第2回	継続的に関わる保護者との関係作り（相互理解と信頼関係の獲得）
第3回	子育て中の保護者のニーズ把握と、保育士の子育て支援
第4回	地域の子ども・子育て家庭に関わる活動と、支援方法
第5回	保護者の相談援助①（基本的な相談援助の考え方、方法を理解する）
第6回	保護者の相談援助②（相談の実際を想定し、インテークとアセスメントを試みる）
第7回	保護者の相談援助③（支援計画、支援のための環境を整える）
第8回	保護者の相談援助④（記録の取り方、評価、カンファレンス）
第9回	職員間の連携・協働と他機関との連携
第10回	子育て支援の実際①～事例検討やロールプレイを中心に～（保育所等における支援）
第11回	子育て支援の実際②（地域の子育て家庭に対する支援）
第12回	子育て支援の実際③（障がいのある子どもと家庭に対する支援）
第13回	子育て支援の実際④（特別な配慮を必要とする子ども及びその家庭に対する支援）
第14回	子育て支援の実際⑤（要保護児童等の家庭に対する支援）
第15回	まとめ：多様なニーズを抱える子育て家庭の理解と保育士の役割

◇使用テキスト・参考文献

『保育の専門性を生かした子育て支援』 亀崎美沙子 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

授業への意欲・態度、グループワークなどへの参加状況、レポートおよび期末テストの成績から総合的に評価する。

教育方法論

担当 藤村公三郎

講義 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

全体目標：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

（１）教育の方法論

一般目標：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

到達目標：１）教育方法の基礎的理論と実践を理解している。

２）これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。

３）学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。

４）学習評価の基礎的な考え方を理解している。

※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」

（２）教育の技術

一般目標：教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。

到達目標：１）話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。

２）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。

（３）情報機器及び教材の活用

一般目標：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

到達目標：１）子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。

※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」

２）子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

◇授業の概要

子供の自発性、子どもたちに育みたい資質・能力を伸ばすために必要な教育方法のあり方(主体的・対話的で深い学びの実現等)を理解し、保育者として成長していくための土台を培う。

主体性を活かしながら、環境を通しての教育、遊びを通しての教育、一人ひとりの発達の特性に応じた教育方法と技術を学ぶ。講義と演習を行い、演習はアクティブラーニングの手法を取り入れたり、情報機器を活用したりして行う。

◇授業計画

	内 容
第1回	幼児教育にふさわしい教育方法とはなにか。教育方法について学ぶ意義を理解する。
第2回	環境を通しての教育について理解する。
第3回	幼児の遊びについて理解を深め、遊びを通しての指導について学ぶ。
第4回	幼児理解を根幹に置いて幼児の主体性を重視した保育について学びあう。
第5回	主体的・対話的で深い学びの意義を理解し、方法の演習を行う。
第6回	様々な方法の保育形態について学び、評価についても理解する。自由保育 一斉保育など
第7回	様々な方法の保育形態について学び、評価についても理解する。統合保育など。
第8回	領域の活動の具体的な場面について話し合い学びあう。言葉の指導方法を取りあげる。
第9回	領域の活動の具体的な事例について話し合い学びあう。造形遊びの指導・技術を取りあげる。
第10回	日本の幼児教育に影響を及ぼしたフレーベルの幼児教育について学ぶ。
第11回	日本の幼児教育に影響を及ぼしたモンテッソーリの幼児教育について学ぶ。
第12回	保育現場でとり上げられることの多い児童文化財に付いて学び幼児教育に活かす方法を学ぶ。
第13回	絵本を取り上げ、実際に読み聞かせを行い、互いに評価しあい、より良い指導技術を探る。
第14回	今までの講義や演習で行ったICTを振り返り、その活用方法、リテラシーについて学ぶ。
第15回	本講座のまとめ

◇テキスト

『幼児教育の方法』小田 豊 青井倫子 編著、 北大路書房 2009 年
『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 フレーベル館 2017 年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017 年
『保育所保育指針 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇参考書・参考資料等

必要に応じ提示し、紹介する。レジュメ・資料・ワークシートを配布する

◇学生に対する評価

テスト (50%) 演習 (25%) レポート (25%)

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

中学校教諭・校長 (30 年)・教育委員会にて教育相談員 (2 年) の実績を持つ。また、文部科学省学習指導要領解説作成協力者 (3 年)・文部科学省中央指導者研修会講師 (4 年)、学童保育所 (4 年 6 ヶ月) にてアドバイザーや施設長代理としての実績を持つ。

幼児理解と教育相談

担当 会田朋世

講義 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。

幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

（１）教育の意義と理論

学校における教育相談の意義と理論を理解する。

- １）学校における教育相談の意義と課題を理解している。
- ２）教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

（２）教育相談の方法

教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。

- １）幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。
- ２）学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。
- ３）受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。

（３）教育相談の展開

教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

- １）職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。
- ２）いじめ、不登校、不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
- ３）教育相談の計画の作成や必要な園内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解している。
- ４）地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

幼児理解の理論及び方法

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。

幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

幼児理解の意義と原理

（１）幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。

- １）幼児理解の意義を理解している。
- ２）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。
- ３）幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。

（２）幼児理解の方法

幼児理解の方法を具体的に理解する。

- １）観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
- ２）個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。

- 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。
- 4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。

◇授業の概要

教育相談は、幼児が人格形成の基礎を培う時期に人と関わることを楽しみながら教職員との信頼関係を築き、集団の中で適応する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児の発達の状況に即しつつ、個々の特質や課題を捉え、支援するために必要な基礎的な原理や技法を学ぶ。また、専門機関と連携して子どもと保護者を支えていくことの必要性を理解する。

◇授業計画

	内 容
第1回	幼児教育相談の意義—幼児教育相談が必要とされている背景を学ぶ
第2回	子どもの発達の理解と援助—乳幼児の発達と保育者の援助を理解する
第3回	幼児教育相談の理解と方法—カウンセリングの基礎知識と相談の基本的な進め方
第4回	幼児教育相談の活用—個々の状況に応じた相談の段階と保育者の役割
第5回	幼児教育相談と保育①—不登園の事例を通して学ぶ
第6回	発達障がい理解—子どものニーズへの対応と保護者の障がい受容について考える
第7回	幼児教育相談と保育②—つまずきの場面から子どもの育ちを考える
第8回	子育ての支援のあり方—保護者への支援と子育て環境
第9回	地域社会・関係機関との連携—社会資源とのネットワーク作り
第10回	カウンセリングの基本的技法と相談の基本的態度の実践
第11回	幼児教育相談と保育③—支援が必要な家庭の事例を通して目標の立て方と支援の進め方を理解する
第12回	保育者のメンタルヘルス—子どもの発するシグナルに気づくには
第13回	幼児教育相談の現状と今後の課題
第14回	アセスメントと子ども理解—子ども理解の意味と方法
第15回	援体制の整備と家庭や地域との連携—園内の協力体制と連携のあり方 まとめ 定期試験

◇テキスト

- 『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』文部科学省 フレーベル館 2017年
『保育所保育指針解説 平成30年3月』厚生労働省 フレーベル館 2017年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』内閣府・文部科学省・厚生労働省

◇参考書・参考資料等

- 『親・保育者のための子育て・保育カウンセリングワークブック』
清水 勇・阿部裕子 著 学事出版 2006年

◇学生に対する評価

授業中の参加態度・提出物・レポート（30%）、試験（70%）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

福祉施設に15年間携わった実績を踏まえ、障がいのある方及びその家族の相談・支援の実務者の観点から授業を行う。

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。
 - 1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。
 - 2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
- (2) 乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成の重要性を理解する。
 - 1) 乳幼児期の体の発達の特徴を説明できる。
 - 2) 乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。
- (3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。
 - 1) 乳幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。
 - 2) 乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
 - 3) 危険に関してリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。
- (4) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を実践的に理解する。
 - 1) 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。
 - 2) 乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。
- (5) 多種多様な運動遊びを通して育つ資質・能力を把握する。
 - 1) 多種多様な運動遊びの持つ教育的な意義を脳科学的な視点から捉えられるようになる。
- (6) 身近な運動環境のもつ教育的な価値を理解する。
 - 1) 人と人との運動的な関わりの楽しさとその意義を体験的に理解する。
 - 2) 身近なもの（なわ、ボール、フープ、お手玉など）の価値の多様性を理解する。
 - 3) 身近なものを柔軟な発想で様々な利用し遊びを工夫したり考えたりすることが出来る。
- (7) 運動技能獲得の過程にある様々な資質・能力の育ちとその支援の在り方を理解する。
 - 1) 運動技能の獲得における人の存在の重要性について理解する。
 - 2) 今出来ていることを認める支援在り方の重要性について理解する。
 - 3) 運動技能獲得の実態を体験的に理解しながら支援の在り方を深める。
 - 4) 運動技能の運動技能獲得の達成感のみではなく、獲得のための多くの失敗経験に貴重な教育的な価値が存在していることを理解する。
- (8) 乳幼児期の健康課題について主体的に学ぶ姿勢を身につける
 - 1) 主体的に乳幼児期の健康課題について学び、発表する方法を理解する。

◇授業の概要

健康な心と体の育成に関して、温かい養護的な環境を基本として自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うため、領域「健康」の指導の基礎となる知識、技能を身に付ける。具体的には、乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達、運動遊びにおいて、乳幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて実践的に理解する。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション：乳幼児期の健康課題
第2回	乳幼児期の身体の発達の特徴・生理的機能の発達と特徴
第3回	乳幼児の健康・体力と生活：栄養・休養・運動の重要性
第4回	乳幼児の健康・体力と生活：着脱衣・清潔・排泄等の生活習慣の獲得及び生活リズムの形成とその意義
第5回	乳幼児期の運動発達の特徴
第6回	乳幼児の安全教育と危機管理
第7回	乳幼児と安全・救急の基礎的知識及び技術・病気の予防
第8回	運動技能獲得による子どもの資質・能力への影響とその支援の在り方
第9回	運動遊びを通して育つ資質・能力とその支援の在り方 課題解決の過程の重要性
第10回	運動遊び1 鬼ごっこの原点と代表的な鬼ごっこ
第11回	運動遊び2 お手玉・けん玉を使つての運動遊び
第12回	運動遊び3 短縄を使つての運動遊び
第13回	運動遊び4 ボールを使つての運動遊び
第14回	運動遊び5 身近なもの（タオル・新聞紙）を使つての運動遊び
第15回	まとめ：領域「健康」に関わる研究課題発表会 定期試験

◇テキスト

『最新保育講座7 保育内容「健康」』河邊貴子・杉原 隆・柴崎正行 編 ミネルヴァ書房 2009年

◇参考書・参考資料等

『ここがポイント！3 法令ガイドブッカー新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解のためにー』無藤隆 著 汐見稔幸 著 砂上史子 著 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

授業への取り組み（50%）、レポート・課題への取り組みと成果（50%）

言葉

担当 藤村公三郎 演習 1 年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

自分と言葉の関係を常に見直し、人間にとっての言葉の意義や機能について理解し説明できる。言葉に対する感覚を豊かにする実践を幼児の発達の姿と合わせて理解する。幼児の言葉を育て想像する楽しさを広げる児童文化財について基礎的な知識を身につける。

◇授業の概要

日常の生活の中で何気なく使っている言葉を、人間にとっての言葉とは何か、言葉を獲得することの意味は何か、人間と言葉の関係を自分に問い見直す。それを踏まえたうえで、幼児の言葉の獲得、言葉の発達過程、文字の習得の過程について理解し、言葉に対する感覚を豊かにする。想像する楽しさを広げるという視点から、児童文化財の意義について理解する。

◇授業計画

	内 容
第1回	人間にとって「言葉」とは何か； 1) 人間と言葉について 2) 生活の中の言葉 3) 言葉の不思議 4) 保育における言葉
第2回	言葉の機能と意義について学ぶ； 1) 言葉の機能 2) コミュニケーションの道具としての言葉 3) 思考の道具としての言葉 4) 自己調整機能としての言葉
第3回	言葉獲得の理論について学ぶ； 1) 言葉獲得の理論と基礎的要因認知論
第4回	育ちと言葉について学ぶ； 1) 言葉の発達と環境要因 2) 生活と言葉 3) 対人関係と言葉 4) 育ちと言葉
第5回	言葉に対する感覚①； 1) 言葉のやり取りを楽しもうとする言葉に対する感覚を伸ばす。 2) 泣き声・喃語・片言を育む保育者の愛着について学ぶ。 3) 音声言語の発達と保育者の関わりについて学ぶ。
第6回	言葉に対する感覚②； 1) 体験の中から話したいことを言葉にする感覚を磨く。 2) 良き聞き手である保育者・愛着・子ども同士が話し合う機会の醸成・保育者自身の言葉について学ぶ。
第7回	言葉に対する感覚③； 1) 周りに対して注意して聞き、分かるように話す感覚の育成。 2) 人間関係の中の言葉・言葉 とものとを結ぶ。 3) 言葉と行動・自然環境と言葉について学ぶ。
第8回	言葉に対する感覚④； 1) 日常のあいさつにおける言葉の感覚を大切に育てる。 2) 人間関係の中での言葉・児童文化活動としての言葉について学ぶ。
第9回	言葉に対する感覚⑤； 1) 言葉の楽しさや美しさに対する感覚の育成。 2) 好きな人との対話から始まる言葉の発達過程、話す・聞く楽しさの気づきについて学ぶ。
第10回	言葉に対する感覚⑥； 1) 日常生活のなかで文字を使って伝える楽しさを味わう。 2) 文字言葉の豊かさ、園における文字環境の在り方、子ども個々への細やかな対応について学ぶ。
第11回	言葉を育て、想像する楽しさ①； 1) 様々な児童文化財の概要を知る。 2) 児童文化財の歴史・その種類・子どもにとっての児童文化財の意義を理解する。
第12回	言葉を育て、想像する楽しさ②； 1) 児童文化財と出会うことが子どもの発達についてどう影響するのか、様々な知見や研究実践を通して具体的に理解する。
第13回	言葉を育て、想像する楽しさ③； 1) 絵本や物語に親しみ、想像する楽しさ、豊かな言葉の育ちを学ぶ。 2) 話の手順・素材の選択等の基礎的な知識について学ぶ。
第14回	言葉を育て、想像する楽しさ④； 1) 言葉を育む楽しい種々の演出法や歴史を知り、言葉の発達過程や言葉の楽しさや美しさに対する感覚の育成。 2) 話す・聞く楽しさへの気づきについて総合的に考える。
第15回	まとめ； 1) 講座の受講の振り返りと学習の確認 定期試験

◇テキスト

『演習「保育内容 言葉」』 戸田雅美 編著 建帛社

『幼稚園教育要領 平成29年告示』 文部科学省 フレーベル館 2017年

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

中学校教諭・校長（30年）・教育委員会にて教育相談員（2年）の実績を持つ。また、文部科学省学習指導要領解説作成協力者（3年）・文部科学省中央指導者研修会講師（4年）、学童保育所（4年6ヶ月）にてアドバイザーや施設長代理としての実績を持つ。

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017年
『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇参考書・参考資料等

必要に応じ提示し紹介する。DVD・レジュメ・資料・ワークシートを配布する。

◇学生に対する評価

試験（50％） 演習（25％） レポート（25％）

音楽表現Ⅰ

担当 志田尾恭子 演習 1年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。
 - 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。
 - 2) 表現を生成する過程について理解している。
 - 3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
- (2) 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
 - 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
 - 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
 - 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

◇授業の概要

領域「表現」（音楽）の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

◇授業計画

	内 容
第1回	領域「表現」のねらい及び内容の理解 自分自身の表現を振り返り、その生成過程における「感じる・気付く・考える」といった内的な作用の重要性を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
第2回	幼児の表現の発達の理解 乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解するとともに、乳幼児の音楽的表現について考える。
第3回	環境との対話① 身体の諸感覚を通して環境と対話し、感受性（気付き・思考・イメージ）を豊かにする。自らの感性を環境にひらき、感性的な出会いの豊かな環境と表現の関係について理解する。
第4回	環境との対話② 「環境との対話①」において得られた感性的な出会いを、幼児の音楽的な表現活動に展開する可能性を探る。
第5回	イメージから音への表現 心情や情景などを、楽器や声、身の周りの音を使って表現する。
第6回	歌唱・声を中心とした表現活動① 保育現場で歌われる、子どもの歌、季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような表現豊かな歌唱表現を身に付ける。またグループワークとして、幼稚園の一日の生活において、どのような場面で音楽活動を取り入れることできるかを考える。
第7回	歌唱・声を中心とした表現活動② 「歌唱・声を中心とした表現活動①」のグループワークにおいて考えた、幼稚園の一日の生活における音楽活動をグループごとに協働して表現する。歌唱や演奏の技法を深めるとともに、幼児の育ちや保育のねらいに合った教材やアレンジの仕方について考え実践する。
第8回	歌唱・声を中心とした表現活動③ 「歌唱・声を中心とした表現活動①・②」におけるグループワークの発表を行い、表現することの楽しさを実感する。また他のグループの発表を通して、他者の表現を受け止め、共感し学び合い、より豊かな表現について考える。
第9回	歌唱・声を中心とした表現活動のまとめ 「歌唱・声を中心とした表現活動①・②・③」のまとめと ICT を活用した振り返りを行い、表現する楽しさを生み出す音楽的要因について考える。
第10回	音・歌遊びの「学び」の視点からの捉え方 幼児のわらべうたや手遊び歌を体験することを通し、音楽的な「学び」について考える。

第11回	豊かな表現のために① 様々な音楽表現（声楽・器楽など）を鑑賞してイメージを豊かにし、表現の多様性を体験する。
第12回	豊かな表現のために② 唱歌・童謡を用いて、より豊かな音楽表現を身に付ける。
第13回	豊かな表現のために③ アンサンブル（輪唱）を通して音や声の重なり合う美しさを体験する。また、様々な音楽表現（伝統芸能など）を鑑賞してイメージを豊かにし、表現の多様性を体験する。
第14回	豊かな表現のために④ アンサンブル（合唱）を通して音や声の重なり合う美しさを体験する。
第15回	総括 学習のまとめと振り返り 最終レポート 定期試験は実施しない

◇テキスト

『子どものための音楽表現技術』今泉明美・有村さやか 編著 萌文書林 2017 年

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校 2015 年
音楽ファイル

◇参考書・参考資料等

授業の資料として、必要に応じてプリントを配布する。

◇学生に対する評価

授業への取り組みに対する意欲や態度・提出課題等（60%）、グループワークへの取り組みと発表（30%）、最終レポート（10%） 以上により総合的に評価する。

音楽表現Ⅱ

担当 引地敦子

演習 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。
 - 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。
 - 2) 表現を生成する過程について理解している。
 - 3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
- (2) 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
 - 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
 - 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
 - 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
 - 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
 - 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開することができる。

◇授業の概要

領域「表現」（音楽）の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の音楽表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

◇授業計画

	内 容
第1回	音楽表現の源に出会う ―身体・気付き・対話をもとに― 表現とは何か、その源に出会う体験（伝え合う―受け止め合う）を通して、表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
第2回	幼児の音楽表現の発達の理解 映像や事例から、乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解し、幼児の素朴な表現に気付き、共感することができる。また、小学校低学年音楽科での学習内容を低学年の学習指導要領や教科書から理解し、学びの連続性について考える。
第3回	文化との対話① ―児童文化財「絵本」の実際と保育の中での活かし方―ある絵本を例に挙げ、そのお話の内容からどんな音楽活動ができるかを考える。
第4回	文化との対話② ―児童文化財「絵本」や「ミュージックパネル」の実際と保育の中での活かし方―絵本やミュージックパネルを使って、お話の世界にいだき、子どもの“こころ”を育む想像的な音楽表現活動を考える。
第5回	素材との対話 ―スカーフの特性を活かして― 身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、その特性を活かして音楽表現を体験し、幼児の表現活動に展開する可能性を探る。スカーフを色々なものに例え、イメージを豊かにし、想像的な音楽表現活動を行う。
第6回	他者との対話① ―コミュニケーションとしての表現活動―これまでに扱ってきた素材を活かし、子どもの歌に合わせ、グループで音楽表現を考える。
第7回	他者との対話② ―コミュニケーションとしての表現活動―音楽表現活動のグループ発表
第8回	手遊び歌を「学び」の視点から捉える。手遊び歌を体験することを通し、保育の中での活かし方や音楽的な「学び」について考える。
第9回	わらべうたを「学び」の視点から捉える。わらべうたを体験することを通し、保育の中での活かし方や音楽的な「学び」について考える。
第10回	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び生活や遊びの中にある声や音の面白さに気付く。絵本中の登場人物の心情や情景などを、楽器や声、身の周りの音を使い、協働して表現する。
第11回	豊かな表現のために① 器楽合奏曲の分析（3歳児、4歳児、5歳児）を行う。
第12回	豊かな表現のために② 器楽合奏（アンサンブル）を通じ、音の重なり合う美しさを体験する。

第13回	音楽遊び指導の実際 子どもの発達に即したねらいを定め、グループでテーマ、内容を考える。
第14回	音楽表現活動の実践、学習のまとめ・発表① 音楽を用いた主活動の実践
第15回	音楽表現活動の実践、学習のまとめ・発表② 音楽を用いた主活動の実践 定期試験 音楽表現活動の振り返り、レポート

◇テキスト

『子どものための音楽表現技術』今泉明美・有村さやか 編著 萌文書林 2017 年

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校 2015 年

授業の資料として、必要に応じてプリントを配布する。

音楽ファイル

◇参考書・参考資料等

『すてきな保育者をめざして』改訂第2版 兼重祐子 監修 東京教育専門学校 2017 年

◇学生に対する評価

①授業への取り組みに対する意欲や態度、発表等（40％） ②指導計画の立案、模擬実践（40％）

③最終レポート（20％）

造形表現

担当 鈴木一夫

演習 1年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- (1) 領域「表現」のねらい、内容を理解し、造形表現について、様々な表現の知識・技能・表現力を身につけ、感性を豊かにする。
 - 1) 様々な素材・教材を通して、特性をいかした表現ができる。
 - 2) 表現することの楽しさを実感し、楽しさを生み出す要因について理解できる。
 - 3) 協同して表現することを通し、他者の表現を受け止め、より豊かな表現につなげることができる。
 - 4) 他領域、小学校低学年の表現の関連性について理解できる。
 - 5) 事例、ICT、映像を活用して表現活動を行うことができる。
- (2) 遊びや表現の違い方法について発達過程を理解する。
 - 1) 遊びや生活における表現について理解できる。
 - 2) 表現の耐用性を理解し共感できる。
 - 3) 発達過程における表現方法や環境構成について理解できる。

◇授業の概要

領域「表現」のねらい、内容を理解し、幼児の表現の姿や、その発達過程を促す要因、感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境構成などについて、他領域との関連を考えながら、主体的に知識・技能・表現力を身につける。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション・領域「表現」のねらい及び内容の理解 アンケート「小・中学校の造形表現」「制作物」
第2回	素材の特性、教材、用具についての理解 造形表現で用いる身近な素材、教材用具を具体的に調べる。
第3回	豊かな感性、表現する力を養い創造性を豊かにする。 様々な素材を用いて創造的な活動表現を楽しむ内容を考え、表現する。
第4回	生活や遊びの中で興味のあるものや経験したことの表現 興味のあるものや経験したことを、各自が選択し、かいたりつくったりする。
第5回	表現の発達過程の理解 園見学、映像資料等を用いて具体的に表現活動について考える。
第6回	身近な自然環境との関連 自然、園内外、各施設等表現活動に関連するものを調べる。
第7回	身近な自然や身の回りのものへの関心を持ち、形、色、手触り等を楽しむ。 花、土、枝、水等を用いて表現をする。
第8回	形、色、手触り、大きな数量について考え、表現を楽しむ。 様々な素材を用いて、イメージを豊かにし、工夫してかいたりつくったりする。
第9回	表現したものを室内に装飾し、適切な室内環境について考える。 興味、関心を持てる室内環境について意見交換し具体的にしていく。
第10回	共同製作を通した、対話の大切さ、共感、違いの理解する。 グループ別にテーマを選び制作する（季節、室内外装飾等）。
第11回	伝統行事・遊びに親しみ表現する。 行事・遊びに関するものを造形・身体・言葉・音楽表現等の関係を理解する。
第12回	具体的な保育内容を想定した指導案を作成する。 素材、テーマ別に意見交換を行なう。
第13回	具体的な制作過程の検討する。 グループ別に発表会等の原案を考え、制作過程の意見交換を行なう。
第14回	造形表現のねらい、内容、学習内容をまとめる。 表現等レポートにまとめる。
第15回	まとめ・振り返り 表現について、ポートフォリオ、制作物、小学校との連携について

◇テキスト

『保育をひらく造形表現』 槇 英子 著 萌文書林 2008年

◇参考書・参考資料等

適宜資料を配布・提示する

◇学生に対する評価

授業で製作した提出物（70%）、提出レポート（30%）

音楽Ⅰ

担当 引地・志田尾・久道
中倉・森・中井

演習 1年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①保育者の表現技術として必要とされるピアノの基礎的な奏法を学習する。
- ②楽譜を読み、理解することができる。
- ③正しい音（音程）、リズム、ハーモニーで演奏することができる。
- ④音楽の強弱、ニュアンスを表わすことができる。

◇授業の概要

教育・保育現場では、保育者が正しいピアノの奏法技術を持って、幼児と音楽との関わりを援助していくことが必要とされる。子どもの感性は、保育者の豊かな音楽表現力によって引き出されていくものである。音楽を通して、保育者と子ども達が一体となって感動を共有できるような保育者の豊かな音楽性を育てることを目指していく。

◇授業計画

	内 容
第1回	ピアノ学習のための目的と心構え、進め方等説明 ト音記号、ヘ音記号／音名その① 及び関連楽曲
第2回	音名その②／リズムその①（四分音符、二分音符、付点二分音符、全音符、休符）及び関連楽曲
第3回	ハ長調の音階その①（構成とその弾き方、英米音名の理解） 及び関連楽曲
第4回	拍子（4拍子、3拍子、2拍子） 及び関連楽曲
第5回	和音について（二和音） 及び関連楽曲
第6回	リズムその②（八分音符、タイと付点四分音符）及び関連楽曲
第7回	音名その③（加線について、新しい音域）及び関連楽曲 まとめの曲の課題発表、選曲
第8回	三和音の構成／主要三和音について（コードネームの理解） 及び関連楽曲
第9回	ハ長調における主要三和音とその使い方、及び関連楽曲
第10回	リズムその③（十六分音符、付点八分音符）
第11回	速度標語、強弱記号の説明 及び関連楽曲
第12回	まとめの曲指導① 暗譜で弾く
第13回	まとめの曲指導② 表現力をつける
第14回	まとめの曲指導③ 仕上げ
第15回	学習のまとめ ピアノ演奏・発表

◇テキスト

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校 2015年
音楽ファイル
中級、上級者のテキストは、個人のレベルに合わせ担当講師が選択する。

◇学生に対する評価

まとめの演奏・発表 60%、授業への参加態度及び課題への取り組み 40%

音楽Ⅱ

担当 引地・志田尾・岩瀬 演習 1年後期
久道・森・中井

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①保育者のさらなるピアノ奏法技術の向上と、豊かな音楽表現力を高める。
- ②子どもたちが心地良く歌うことのできる「子どもの歌の伴奏法」を身につける。
- ③主要コードネームを理解し、簡易伴奏ができる。

◇授業の概要

保育者の奏でる心地よい音楽は、子どもの心や感性に響き、表現の芽の育ちにつながるがいえよう。ピアノの学びを通して、子どもの音楽表現を豊かに引き出していくことができる保育者の感性や音楽表現力を伸ばすことを目指していく。音楽Ⅰ（ピアノ）で取得した技術をさらに高め、子どもの歌の伴奏や主要コードネームによる簡易伴奏等の保育現場で必要な実践力を習得する。

◇授業計画

	内 容
第1回	ト長調その①（音階構成の理解）及び関連楽曲
第2回	ト長調その②（主要三和音について）及び関連楽曲
第3回	ト長調その③（コードネームのしくみ）/速度記号 及び関連楽曲
第4回	ヘ長調その①（音階構成の理解）及び関連楽曲
第5回	ヘ長調その②（主要三和音について）及び関連楽曲
第6回	ヘ長調その③（コードネームのしくみ）及び関連楽曲
第7回	二長調その①（音階構成の理解）及び関連楽曲 まとめの曲の課題発表、選曲
第8回	二長調その②（主要三和音について）及び関連楽曲
第9回	二長調その③（コードネームのしくみ）及び関連楽曲
第10回	子どもの歌伴奏法（コードネームを見て弾く：ハ長調）及び関連楽曲
第11回	子どもの歌伴奏法（コードネームを見て弾く：ト長調）及び関連楽曲
第12回	子どもの歌伴奏法（コードネームを見て弾く：ヘ長調，二長調）及び関連楽曲
第13回	まとめの曲指導① 表現力をつける
第14回	まとめの曲指導② 仕上げ
第15回	学習のまとめ ピアノ演奏・発表

◇テキスト

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校 2015年
音楽ファイル
中級、上級者のテキストは、個人のレベルに合わせ担当講師が選択する。

◇学生に対する評価

まとめの演奏・発表（60%）、授業への参加態度及び課題への取り組み（40%）

教育実習（前半分）

担当 近喰晴子
木村明子

実習 1 年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①教育実習に必要な知識や技能を身につける。
- ②幼稚園の目的や保育内容など、幼稚園の概要を知る。
- ③オリエンテーション、見学、観察、部分参加、責任実習等実習の全体像を理解する。
- ④社会人としてのマナーや実習生として学びの姿勢を明確にする。

◇授業の概要

- ①映像教材を視聴し保育の場、子どもの様子など実習施設を知る。
- ②遊びや造形活動など教材研究をする。
- ③記録や指導案の書き方など実習中必要な書類の書き方や指導案を立案する。
- ④保育者にふさわしい立ち振る舞い方を身に着ける。

◇授業計画（1 年次）

	内 容
第 1 回	実習計画や教育実習の全体像を理解する。
第 2 回	実習に必要な書類を記入する。
第 3 回	見学実習の進め方と学びの視点。
第 4 回	観察実習の進め方と観察の視点。
第 5 回	参加実習と部分実習。
第 6 回	実習日誌の意義と記入上の留意点。
第 7 回	エピソード記録の書き方と振り返り。
第 8 回	実習の抱負と実習課題設定。
第 9 回	オリエンテーションの意義とオリエンテーション時に学んでくること。
第 10 回	訪問時のマナー、実習生の心構え。
第 11 回	実習終了後の振り返りと自己評価。
第 12 回	実習体験報告。
第 13 回	実習自己評価と学びの整理。
第 14 回	実習評価面談。
第 15 回	後期実習にむけ自己課題の整理と学習計画。 定期試験

◇テキスト

『教育・保育実習』小泉裕子 建帛社（2020. 5）

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 フレーベル館 2017 年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017 年
『保育所保育指針 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇学生に対する評価

実習園評価（40％） 実習日誌評価（40％） 実習書類・レポート（20％）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として 6 年、幼稚園副園長として 1 年、幼稚園における特別指導教諭として 5 年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため 3 年間、継続的に保育所における保育を経験した。（近喰）

教育実習（後半分）

担当 近喰晴子
木村明子

実習 2年前期

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①幼稚園の機能や役割について理解する。
- ②幼稚園教諭の役割や職務について理解する。
- ③幼稚園や子どもをめぐるさまざまな問題に関心を持つ。

◇授業の概要

- ①前期実習を振り返り、園生活の様子や保育者の役割を整理する。
- ②部分・責任実習にむけ教材研究や指導案の作成をする。
- ③保育者として子どもへの基本的なかわり方を整理する。

◇授業計画（2年次）

	内 容
第1回	後期実習のねらいや目標について
第2回	実習日誌を読み返し、実習園の保育活動や保育者の職務についての整理
第3回	前期実習日誌記入に対する評価と日誌の表記・表現方法などを学びなおし
第4回	実習に必要な書類の記入
第5回	実習課題や学びの視点の作成
第6回	部分実習・責任実習の意義と指導案について
第7回	教材研究と活動提案型指導案の作成
第8回	責任実習指導案の作成
第9回	オリエンテーションや実習園訪問時のマナー
第10回	実習中の心得
第11回	実習終了後の振り返り（「振り返りシート」を用いて個人的にまとめる）
第12回	実習体験を報告する（グループワークでの報告を通して共有する）
第13回	実習自己評価と学びの整理
第14回	実習評価面談
第15回	実習を通して学んだ保育者のかかわり 定期試験

◇テキスト

一年次に使用したテキストを使用

◇参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領 平成29年告示』文部科学省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

実習園評価（40％） 実習日誌（40％） レポート・提出物（20％）

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。（近喰）

保育実習Ⅰ（保育所）

担当 兼重祐子

実習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育者を目指す学生としての自覚をより確かなものにし、これからの保育の学びにつなげる意識を持つ。
- ②観察や子どもとの関わりの中で、乳幼児発達の全体像を把握し、子どもの生活、遊び、興味や関心等を子どもの様子を観察したり関わったりしながら子どもの理解を深める。
- ③一日の流れを踏まえ保育所の機能の全体像を把握する。保育者の役割、仕事の内容を見学観察、または保育に参加するなどして実際から学び、保育環境づくりの重要性和保育者の保育意識を学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

保育園体験学習での学びや既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育・保育士の業務内容、子育て支援等を通して保育所の役割と機能を理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

12日間の実習終了後、自己評価・巡回担当と実習評価面談をおこない今後の課題を明確にし、次回の実習につなげていく。

◇内容

保育所実習の内容は、実習園でのオリエンテーション及び12日間の実習によって習得するものである。

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所における子どもの生活と一日の流れ
 - (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもの援助や理解
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達課題に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携・協働
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

◇単位認定の方法及び基準

評価は、実習前に保育所に提出する書類の準備から始まり、実習園でのオリエンテーション、実習への取り組み(自己課題への取り組み・日誌等の提出物・出勤状況・実習態度)、実習園からの評価により総合評価をする。

保育実習指導 I (保育所)

担当 近喰晴子

演習 1年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育者を目指す学生として保育実習の意義や目的を押さえ実習を通し、保育の仕事、子どもの人権、最善の利益の考慮、守秘義務等について理解する。
- ②保育実習を通して自己評価や省察を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
- ③実習日誌及び部分実習案を具体的に書けるようにする。

◇授業全体の内容の概要

保育実習指導 I (保育所) では、保育園における実際の保育を見学や観察を通して学ぶ事を目的とする。保育に参加することで乳幼児の保育方法、及び援助について知るだけではなく、保育園が持つ機能、保育士の職務内容等について学んでいく。

◇授業終了時の達成課題(到達目標)

実習を経験し、保育計画の必要性を知り、保育日誌や指導案を作成しながら徐々に計画する重要性を深めていく。実習後は直後指導や評価面談を通し、新たな課題や学習目標を明確にする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション ①保育実習の目的と意義 ②子どもの人権と最善の利益と考慮 ③プライバシーの保護と守秘義務について
第2回	実習の自己紹介をみんなの前で発表する(1)前半グループ
第3回	実習の自己紹介をみんなの前で発表する(2)後半グループ
第4回	実習の内容 (1) ①実習オリエンテーションとは ②オリエンテーションの日誌の書き方と注意事項を確認し記入する
第5回	日誌の書き方(1)保育園の一日(午前)朝の準備から給食までの日誌を記入する
第6回	日誌の書き方(2)保育園の一日(午後)午睡から降園までの日誌を記入する
第7回	日誌の書き方(3)保育者の配慮と意図を再確認しよう～事例問題から～ ①オリエンテーション報告書の記入
第8回	中間テスト ①日誌の作成 ②個人票を作成
第9回	①保育祭に参加し子どものかわりを十分に楽しみ実習生としての心構えを養う ②子ども観察のレポートをまとめる
第10回	部分実習案の書き方 (1) ①書き方のポイントを確認する ②ねらいを達成するための保育者の援助方法を学ぶ ③絵本の読み聞かせの指導案を作成
第11回	部分実習案の書き方 (2) ①準備する物や環境構成に配慮し導入、展開、まとめを意識しながら製作の指導案を作成する
第12回	中間テスト 部分実習案作成
第13回	施設実習体験報告会 ①来年の施設実習に向けて2年生から体験談を聞く ②レポートにまとめる
第14回	実習直前指導 実習巡回教員による指導 ①実習の課題や目標を明確にする
第15回	実習直後指導 実習巡回教員による指導 ①実習報告書記入 ②自己評価をおこなう

◇テキスト

『保育実習』近喰晴子 中央法規

◇参考書・参考資料等

『保育所保育指針 平成29年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017年

◇学生に対する評価

授業態度、発表会、提出物等から評価する。実習までの授業は特に出席を重視し、欠席回数が多い場合は実習見送りとなる場合がある為、必ず出席する事。(第一回目の授業で詳細は説明する。)その他、保育祭参加、体験報告会、実習直前直後指導も授業同様の位置づけとする。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

保育実習Ⅰ（施設）

担当 会田朋世

実習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

児童福祉施設等の役割や機能を理解すると共に、施設職員の職務や専門性を学ぶ。特に、利用児（者）の人権や最善の利益、プライバシーの保護や守秘義務について、しっかり理解する。

◇授業全体の内容の概要

児童福祉施設等の一日の流れや利用児（者）の個々の生活、施設職員の職務を学び、児童や支援の必要な人への理解を深める。観察や利用児（者）との関わりを通して、様々な問題を総合的に考え、計画に基づく活動と支援を理解する。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や利用児（者）との関わりを通して利用児（者）への理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、利用児（者）の保育や支援及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

◇実習の内容

1. 施設の役割と機能

施設における利用児（者）の生活と保育士の援助や関わり方を観察し、支援方法を学ぶ。

2. 利用児（者）の理解

利用児（者）一人ひとりの状態に応じた関わり方や支援の実践。

3. 施設における利用児（者）の生活と環境

計画に基づき、健康管理や安全対策に配慮した利用児（者）の生活を知る。

4. 支援計画と記録

支援計画・記録の活用方法を学ぶと共に自身の記録に基づき省察・自己評価を行なう。

5. 専門職としての保育士の役割と倫理

保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携、保育士の役割と職業倫理、専門職としての保育士の役割を学ぶ。

◇使用テキスト・参考文献

『施設実習 パーフェクトガイド』 守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

実習の取り組み姿勢、日誌等提出物の内容と提出状況、自己評価票への取り組み等を総合して行なう。

保育実習指導Ⅰ（施設）

担当 会田朋世

演習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

施設実習の意義や目的について理解するために、それぞれの施設の役割や利用児（者）についての理解を深める。また、利用児（者）の最善の利益を尊重について理解し、施設職員の専門性や倫理、地域との関係について学び、実習における自己課題を明確化する。

◇授業全体の内容の概要

施設の役割や存在意義、それぞれの施設利用児（者）の特性、施設職員の職務と専門性および倫理観についてしっかりと理解し、実習における自己の課題を明確にする。実習に必要な技術や基本的な考え方を身に付け、実習を行う施設に限らず、児童福祉施設に関する知識を獲得し、実習に役立てる。

◇授業終了時の達成課題（到達目標）

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	施設実習の意義と目的 保育士と施設実習
第2回	施設実習への心構えと手続き 実習生としてのマナー
第3回	入所施設の役割 日常生活と年間行事
第4回	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（乳児院）
第5回	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（児童養護施設）
第6回	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（福祉型障害児施設）
第7回	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（医療型障害児施設①）
第8回	施設の社会的役割と利用児（者）・家族への具体的な支援のあり方（医療型障害児施設②）
第9回	利用児（者）の個別支援計画とは
第10回	プライバシーの保護と守秘義務 施設利用児（者）の人権と最善の利益
第11回	実習直前指導
第12回	実習の計画とオリエンテーションの確認 実習日誌の書き方と提出の方法
第13回	利用児（者）とのコミュニケーション方法と留意点 施設職員としての保育士の役割と専門性 他職種との連携の理解
第14回	自己課題の確認と実習に必要な書類の確認
第15回	実習事後指導 実習自己評価と実習のまとめ

◇使用テキスト・参考文献

『施設実習 パーフェクトガイド』守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

授業への参加態度（30%）、レポートの提出状況・内容（70%）で評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

福祉施設に15年間携わった実績を踏まえ、障がいのある方及びその家族の相談・支援の実務者の観点から授業を行う。

保育実習Ⅱ

担当 兼重祐子

実習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①授業で学んだ乳幼児の発達段階における発達の特徴を実際の子どもの姿から再認識し、子ども理解を深めると同時に、子どもの心の動きを敏感に感じられる感性を培う。
- ②保育環境と子どもの育ちの関連性について実際の子どもの生活・遊び・保育内容から考察し、環境整備者としての役割を学ぶと同時に、自ら積極的に日々の実践を積み重ねる。
- ③子どもの実態に即した指導計画を作成し、実践する。
- ④育児相談、一時保育、延長保育、子育て支援や地域との交流等について理解を深め、保育所の社会的な意義や役割を把握する。

◇授業全体の内容の概要

保育実習Ⅱでは指導案や日誌に保育者の意図や配慮点を記入できることを目指す。保育所の役割、保育士の業務を再認識し、一人ひとりの子どもと関わり個人にあわせた対応をおこないながら学びを深めていく。

◇授業終了後の達成課題（達成目標）

12日間の実習終了後、自己評価・巡回担当と実習評価面談をおこない保育現場に出る前に何をする必要があるのか課題を明確にする。

◇内容

1. 観察に基づく保育理解
 - (1)子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2)保育士の動き、立ち位置等の観察
 - (3)保育所の生活の流れや展開の把握
2. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携
 - (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解
 - (2)地域社会との連携
3. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
 - (1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の理解
4. 保育士の業務と職業倫理
 - (1)多様な保育の展開と保育士の業務
 - (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理
5. 自己課題の明確

◇学生に対する評価

評価は、実習前の実習園に提出する書類の準備から始まり、実習オリエンテーション、実習への取り組み(自己課題への取り組み、日誌等の提出状況、実習態度)、実習園からの評価より総合評価をする。

保育実習指導Ⅱ

担当 兼重祐子

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①全日の指導計画を保育者の意図や配慮を汲み取りながら書けるようにする。
- ②子どもの安全について常に意識できるよう見通しをもって保育することを目指す。
- ③グループ発表会を通し、責任実習でおこなうレパトリーを確実に増やしていく。

◇授業全体の内容の概要

保育実習指導Ⅱでは、保育実習Ⅰで学んだ保育所が持つ機能、保育士の職務内容、乳幼児の保育方法、援助等の基礎知識を基に保育者としての実践力を身につけていく事をねらいとする。

◇授業終了後の達成課題(達成目標)

最後の実習になるので、保育者の意図や配慮が書けるような実習日誌や半日、全日責任実習の指導案の書き方を理解できていることを目指す。実習終了後は保育者として自信を持って現場に巣立てるよう授業を通して実戦力を身につけていく。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション ①個人票の作成 ②子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的指導とは ③発表会のグループ決め ④個人票作成
第2回	中間テスト 部分実習案の書き方 (復習)
第3回	保育の実践技術を活かした保育実践 グループ発表会(1)①乳児向きの製作、ゲーム、手遊び、歌、絵本の紹介を行い、責任実習への意識を高め、技術面を共有する
第4回	保育の実践技術を活かした保育実践 グループ発表会(2)①幼児向きの製作、ゲーム、手遊び、歌、絵本の紹介を行い、責任実習への意識を高め、技術面を共有する
第5回	部分実習案の返却 ①再度、保育者の意図・配慮、環境構成、指導案のねらい等、記入する内容を確認する ②記録における今後の自己課題を明確にする
第6回	実習日誌、指導案の書き方の復習 ①保育者の意図、配慮、環境構成、日誌のねらいやまとめについて見ていく ②オリエンテーション報告書作成
第7回	保育現場における子どもの危険について(1)乳幼児の室内環境において危険なことを予想し改善策を考える ①子どもの保育と保護者支援について
第8回	保育現場における子どもの危険について(2)実習園でおこった事故、園側の子ども・保護者対応、予防策、また保護者支援の実際を保育実習の場面からグループごとに話し合い発表する。
第9回	実習の自己評価をおこない今後の課題を明確にする (1)現場に向けて①ならし保育の進め方について
第10回	現場に向けて(2)①これだけは押さえておきたい病気と園側の対応を学ぶ②受け渡しのロールプレイング ③おたより帳の書き方と記入
第11回	現場に向けて(3)①おたより帳の返却 ②クラスだよりとは何か ③書く時のポイント ④クラス便りの作成
第12回	保育祭 ①保育祭を通して、子どもとのかかわりを十分に楽しむ。 ②学校環境でどのような物・事が子どもにとって危険なのか配慮し準備をおこなう。
第13回	実習体験報告会 ①1年生に、実習の意欲が持てるよう自身の体験を話す ②今までご指導いただいたことを話す
第14回	実習直前指導 実習巡回教員による指導 ①実習の課題や目標を明確にする
第15回	実習直後指導 実習巡回教員による指導 ②実習報告書の記入 ③お礼状の作成

◇テキスト

『子どもの安全と育ちを守るためのガイドブック』 茗井香保里 編著 大学図書出版

◇学生に対する評価

授業態度、提出物等、学内評価を総合し評価する。実習までの授業は特に出席を重視し欠席回数が多い場合は実習見送りとなる場合がある為、必ず出席する事。(第1回目の授業で詳細は説明する)その他、体験報告会、保育祭参加、実習直前直後指導も授業同様の位置づけとする。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

日本の保育園で6年間、ロンドンの現地保育園で1年半の保育実践経験を持つ。

保育実習Ⅲ

担当 会田朋世

実習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

施設で働く保育士の専門性をより高めるために、施設の役割や利用児（者）についての理解を一層深める。家庭と地域の生活実態に触れて、保護者支援、家庭支援のための知識や技術を養い、個別支援のあり方や多様な専門職との連携について学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

これまでの実習、特に保育実習Ⅰ（施設）の学びを発展させ、施設で働く保育士としての専門性を身に付けるために常に課題意識を持って実習を行う。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
2. 家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。
3. 保育士の業務内容や職倫理について具体的な実践結びつけて理解する。
4. 実習における自己の課題を理解する。

◇実習の内容

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能の理解
2. 施設における支援の実践
 - （1）受容し、共感する態度
 - （2）個人差や生活環境に伴う利用児（者）のニーズの把握と理解
 - （3）個別支援計画の作成と実践
 - （4）利用児（者）の家族への支援と対応
 - （5）各施設における多様な専門職との連携・協働
 - （6）地域社会との連携・協働
3. 保育士の多様な業務と職業倫理
4. 保育士としての自己課題の明確化

◇使用テキスト・参考文献

『施設実習 パーフェクトガイド』守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

実習の取り組み姿勢、日誌等提出物の内容と提出状況、自己評価票への取り組み等を総合して行なう。

保育実習指導Ⅲ

担当 会田朋世

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

施設で働く保育士としての専門性をより高めるために、施設の役割や利用児（者）の特性や地域・家庭との関係について理解を一層深めるとともに、職業倫理について考える。また、個別支援のあり方や多様な専門職との連携について学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

保育実習Ⅰ（施設）の内容をふまえ、目的をもって実習に臨めるように自己課題を明確にする。また、既習の教科の内容や見学を通して施設の役割と利用児（者）およびその家族の特性に関する理解をより深め、保育士として、利用児（者）の最善の利益を考えた支援とは何かを考える。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	実習の意義と目的および手続き
第2回	過去の実習の振り返り ①乳児院・児童養護施設
第3回	過去の実習の振り返り ②障害児（者）施設等
第4回	実習施設の概要と支援方針 施設利用児（者）およびその家族の特性について
第5回	個別支援計画とソーシャルワーク
第6回	実習概要の確認と自己課題の明確化 保育士倫理について
第7回	保育の実践力の育成 利用児（者）の状態に応じた関わり
第8回	実習直前指導 実習への心構えおよび自己課題の確認
第9回	実習事後指導 実習体験の振り返り 実習での学びおよび自己課題の総括
第10回	実習報告書・実習事後指導記録の記入
第11回	施設・福祉関係機関等見学の事前学習①
第12回	施設・福祉関係機関等見学の事前学習②
第13回	施設実習体験報告会
第14回	施設・福祉関係機関等見学
第15回	施設等見学の振り返り 施設保育士の職務と専門性 総まとめ

◇使用テキスト・参考文献

『施設実習 パーフェクトガイド』守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵 著 わかば社

◇単位認定の方法及び基準

授業への参加態度（30%）、レポートの提出状況・内容（70%）で評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

福祉施設に15年間携わった実績を踏まえ、障がいのある方及びその家族の相談・支援の実務者の観点から授業を行う。

教職・保育実践演習

担当 近喰晴子

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

- ①これまでの学びを振り返り、幼稚園教諭に必要とされる知識・技能等について討論し実践力の向上を図る。
- ②幼稚園教諭の役割や職務内容、専門性についてグループ討論等を行うことで幼稚園教諭の職務を総合的に理解する。
- ③映像教材の視聴やロールプレイングを通し幼児理解や指導・援助のあり方を理解する。
- ④子どもや保育周辺の諸問題について関心を持ち、調査・研究を行うことで幅広い視野を持つ。

◇授業の概要

- ①履修カルテを作成することで、自己の学びを振り返り、学びの総括をする。
- ②自己課題を明確にし、卒業までの学びの計画を作成する。
- ③映像や事例を用いてグループで話し合いを行う。
- ④保育周辺の諸問題に関心を持ち、調べたり発表をする。

◇授業計画

	内 容
第1回	教職実践演習の位置づけ
第2回	履修カルテとは
第3回	学びの振り返りと自己課題
第4回	実習の振り返りと保育者の役割
第5回	保育の場における保育実践力とは
第6回	発達支援と保育者のかかわり、映像教材を通して
第7回	子ども同士のトラブルへのかかわり、映像教材を通して
第8回	配慮を必要とする子どもへのかかわり
第9回	保育者の専門性、KJ法によるグループ討論
第10回	発信者としての保育者、プレゼンテーション、ドキュメンテーション
第11回	自己省察とPDCA
第12回	保育を取り巻く現代的課題
第13回	課題研究と資料収集
第14回	研究発表と討論
第15回	学びを総合的に捉えなおす 定期試験

◇テキスト

『保育・教職実践演習 ―保育者に求められる保育実践力―』小原敏郎 著 建帛社 2018年

◇参考書・参考資料等

『子ども白書 2019』日本子どもを守る会著 本の和泉社 2019年
『日本子ども資料年鑑 2019』母子愛育会研究所 KTC 中央出版 2019年

◇学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (40%)、授業への参加・態度 (30%)

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

保育原理Ⅱ

担当 日吉佳代子 講義 2年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①保育の意義及び目的、法令制度を再確認する。
- ②「保育」とは何か、現代社会に求められる「保育者」を理解する。
- ③保育の現状や課題を分析し、保育者のあり方を個々に導きだしていく。

◇授業全体の内容の概要

1年次に履修した「保育原理Ⅰ」を踏まえ、より具体的、実践を通して学んでいく。また、他教科との関連を意識し、保育者として知っておきたい知識を再確認、保育理解を行う。本講義を通して、一人ひとりが「子ども観」・「保育観」を見つめ直し、保育現場につながる学びから自分の保育像を深めていく。

◇授業終了時の達成課題(達成目標)

保育の現状や課題の学びから現場でも学び続ける意味とその心構えを授業を通し理解する。

◇授業計画

	内 容
第1回	オリエンテーション (1)保育の目的 ①保育対象としての子ども ②子どもとのかかわる上で保育者が大切にすること
第2回	保育の基本(1) ①保育の基盤と養護の意味 ②保育者に求められる専門性とは
第3回	保育の基本(2) ①保育所とは ②幼稚園とは ③認定こども園とは
第4回	保育における様々な配慮(1) ①子どもの健康と安全 ②保育所・幼稚園・認定こども園等における食育
第5回	保育における様々な配慮(2) ①特別な配慮を要する子どもの支援 ②園生活における行事 ③行事の計画及び評価・反省
第6回	保育における様々な配慮(3)保育実習終了後グループで以下について話し合い発表する ①実習園でおこなわれていた食育の取り組み内容 ②障がい児、気になる子どもの関わり方について
第7回	保護者支援(1) ①子どもの最善の利益と考慮 ②成長の喜びの共有 ③秘密保持について
第8回	保護者支援(2) ①保育の専門性を活用した保護者支援 ②特別なニーズをもつ家庭への支援
第9回	保育の専門性と質の向上(1) ①保育の質の向上に向けた取り組み ②保育の質の向上と施設長の責務
第10回	保育の専門性と質の向上(2) ①保育の質とチームワーク ②保育所・幼稚園・認定こども園等における研修
第11回	保育の評価と改善 ①保育所における第三者評価授業とは ②幼稚園における学校評価とは
第12回	保育所等における苦情解決制度 ①苦情解決制度とは ②苦情の対応から質の向上へ
第13回	諸外国の保育の発表会(1)ドイツ・オーストラリア ①保育の特徴・保育方法・保育形態 ②今後の課題について
第14回	諸外国の保育の発表会(2) アメリカ・中国 ①保育の特徴・保育方法・保育形態 ②今後の課題について
第15回	諸外国の保育の発表会(3) 韓国・イギリス ①保育の特徴・保育方法・保育形態 ②今後の課題について ③後期のまとめ

◇テキスト

未定

◇参考書・参考資料等

『幼児教育法』和田 實 著

◇学生に対する評価

授業中の積極的参加・授業態度・課題提出・発表会等により総合評価をする。

児童家庭福祉Ⅱ

担当 北川裕子

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

子育て、養育、養護ケアについて多角的な視点をもつ。

児童家庭福祉に関する具体的事例の考察を通じて、保育専門職に必要な知識や、人権尊重の姿勢を身に付ける。

◇授業全体の内容の概要

福祉的観点から養育の責任や人権尊重について深める。これらを通して、保育者の基盤となる知識や理念を理解するとともに、より深い保育観・養育観の形成につなげていく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

養育の責任について考え、自分の意見をもち、事案を冷静に分析する力、問題を筋道立てて解決する力につなげる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	近年の児童家庭福祉について
第2回	公的な児童課程福祉サービスと家庭
第3回	児童虐待の急増とその背景
第4回	児童虐待から児童を守る制度・法システム、行政・民間の取り組み
第5回	児童虐待問題に対する保育所・保育士の役割
第6回	児童福祉施設における児童の人権問題
第7回	児童の保健の現状と課題
第8回	ひとり親家庭の福祉の現状と課題
第9回	障がい児の福祉の現状と課題
第10回	非行児童の福祉の現状と課題
第11回	健全育成の現状と課題
第12回	里親制度の現状と課題
第13回	子育て支援と地域福祉の現状と課題
第14回	児童家庭福祉の展望と課題
第15回	まとめ

※状況により取り上げるテーマの内容や順番が変更になる場合がある。

◇テキスト

テキストは購入不要。参考文献は必要に応じて紹介する。

◇学生に対する評価

調べ活動、発表など授業中の参加態度（10%）、提出物、レポート（30%）、試験（60%）による総合評価。

臨床心理学

担当 丸林さちや 演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

精神内界を理解する理論を学び、人間の発達を臨床的視点から捉えなおす。自己肯定感を育てる保育のために、子どもの育ちをエピソードで描く考え方を学ぶ。

◇授業全体の内容の概要

子どもや保護者、職場の人々を理解する時の精神力動と関係発達の理論を学び、他者理解をする方法を得る。また子どもの姿をエピソードで描き心理学の知見を活かす。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

他者理解の方法を広げ、保育者としての自己理解にも結び付けられるようにする。保育の場で用いるエピソード記述を理解し、事例を読み解けるようになる。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	臨床心理学とは何かー臨床心理学を概説し、導入としてグループ体験を行うー
第2回	精神分析 無意識 フロイトー無意識、葛藤、自我をキーワードとして、心の構造を学ぶー
第3回	交流分析① エゴグラム バーンー自己理解のための質問紙法を用い人格構造を理解するー
第4回	交流分析② 理論 バーンー他者との交流パターンの分析や、自己肯定他者肯定を知るー
第5回	乳幼児期の発達 マーラーー3歳児までの母子関係の変化と、分離個体化の発達を理解するー
第6回	生涯発達 エリクソンー人の生涯にわたる発達について、8段階に分け解説するー
第7回	青年期と児童期の架け橋①ー発達段階の積み重ねを、資料映像を通して考えるー
第8回	青年期と児童期の架け橋②ー資料映像の感想を話し合い、成長がどう遂げられるか知るー
第9回	来談者中心療法 ロジャーズー他者援助に必要な、受容・共感・自己一致について学ぶー
第10回	教育場面での子どもの理解ー子どもが聴き合う学級活動の映像から共感について考えるー
第11回	子どもの心の育ちをエピソードで描く①ー見えない心の取り上げ方ー
第12回	子どもの心の育ちをエピソードで描く②ー自己充実欲求と繁合希求欲求ー
第13回	子どもの心の育ちをエピソードで描く③ー年齢と共に複雑な成長を見せる子どもたちー
第14回	子どもの心の育ちをエピソードで描く④ー自己共感の根・重要なおとなの2つの働きー
第15回	まとめー臨床心理学をベースにした理解の仕方を確認するー

◇参考書・参考資料等

プリント

◇学生に対する評価

試験 70% 課題 30%

保育内容演習Ⅱ（造形）

担当 鈴木一夫

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

制作と理論を通して表現を学ぶ。指導、援助の準備、制作過程の配慮すべき点を考え実践力を養うとともに子どもの表現の意義、環境について理解・実践力を養う。

◇授業全体の内容の概要

子どもの造形活動、表現を理解し知識、基礎技能を習得する。様々な素材や道具を使用して、制作を通して楽しみや喜びを体験し、指導援助法を学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子どもの表現について理解し、発達段階、制作過程における適切な指導、援助方法を身につける。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション 授業の内容、造形表現について
第2回	デカルコマニー、スパッタリング、ステンシル等（紙を使用したもの）
第3回	実習の造形について①
第4回	実習の造形について②
第5回	実習の造形案、準備、制作（個人指導）
第6回	おもちゃづくり（画用紙・ケント紙・ダンボール 他）
第7回	おもちゃづくり（毛糸 布 他）
第8回	年間行事のポスター・デザイン①
第9回	年間行事のポスター・デザイン②
第10回	グループ制作 ①紙、毛糸、布等を使用した装飾・平面
第11回	グループ制作 ①紙、毛糸、布等を使用した装飾
第12回	グループ制作 ②絵具、くれよん等を使用した装飾・立体
第13回	グループ制作 ②絵具、くれよん等を使用した装飾
第14回	まとめ 幼稚園教育要領について レポート
第15回	まとめ 保育所保育指針 認定こども園教育要領について レポート

◇使用テキスト・参考文献

『保育をひらく造形表現』 槇 英子 萌文書林 2018年

◇学生に対する評価

授業で制作した提出物(70%) 提出レポート(30%) 内容などから総合的に判断する。

保育内容演習Ⅱ（生活）

担当 近喰晴子

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

園生活における子どもの生活について考える。園生活の中心となる遊びについて、学びの姿、学びをとらえる視点などについて事例や映像教材を通し具体的な活動の姿から理解を深める。

◇授業の概要

保育施設における乳幼児の生活の実態について、実習体験の振り返りや映像教材から理解する。また、家庭、地域、園生活など乳幼児が生活する場について客観的な視点でとらえ、それぞれの場における生活の意味について考える。その上で、発達過程を考慮した遊びの環境や保育者の役割について学ぶ。

◇授業計画

	内 容
第1回	乳幼児期における生活とは
第2回	子どもの生活についての保育実践事例の考察「人間関係」をテーマに①
第3回	子どもの生活についての保育実践事例の考察「人間関係」をテーマに②
第4回	子どもの生活についての保育実践事例の考察「環境」をテーマに①
第5回	子どもの生活についての保育実践事例の考察「環境」をテーマに②
第6回	子どもの生活についての保育実践事例の考察「言葉」をテーマに
第7回	子どもの生活についての保育実践事例の考察「表現」をテーマに
第8回	子どもの生活についての保育実践事例の考察「健康」をテーマに
第9回	保育思想史から保育方法を学ぶ（和田實を中心に）
第10回	子どもの生活の児童文化（絵本を中心に）
第11回	子どもの生活と児童文化（歌選び・ダンス）
第12回	食育についての基本と考察
第13回	幼少の連携を考える（協同的学ぶの保育実践例から）
第14回	子どもの生活と家庭との連携
第15回	子どもの生活に関する授業の総括

◇テキスト

『カツリキのうたあそび&運動会ダンス』みねかつまさ・岡田リキオ 世界文化社

◇参考書・参考資料等

適宜、資料を配布し、参考書を紹介する。

◇学生に対する評価

授業への参加態度と取り組み（60%）、レポート提出（40%）を基に総合的に評価する。

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

幼稚園教諭として6年、幼稚園副園長として1年、幼稚園における特別指導教諭として5年の経験を持つ。
また、乳児保育実践研究のため3年間、継続的に保育所における保育を経験した。

保育内容演習Ⅱ（音楽）

担当 引地敦子

演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

- ①目白幼稚園の園児との音楽活動を通して、子どもの音楽表現の姿やその発達を理解する。
- ②指導計画と実践を行うことにより、保育者に求められる望ましい音楽的保育内容のあり方を考えていく。

◇授業全体の内容の概要

保育所保育指針に示された領域、表現(音楽)の内容の理解を深め、子ども一人ひとりの表現を受け止め、適切な援助をもって、さらなる音楽表現活動への意欲を高めていく。授業内で、実際に目白幼稚園の園児達と一緒に音楽活動を行うことを予定している。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子どもの感性や創造性を育むと共に保育者の豊かな感性と音楽表現力を高める。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション・領域「表現」（音楽）について
第2回	子どもの発達と音楽的表現
第3回	遊びの理論～音楽遊び
第4回	目白幼稚園園児達との音楽表現活動1 音楽を通してコミュニケーションを取り、子ども達と学生との触れ合いを大切にする。
第5回	目白幼稚園園児達との音楽表現活動2 手遊び歌や秋の歌を歌い、季節を感じながら音楽活動を行う。
第6回	目白幼稚園園児達との音楽表現活動3 音楽を聴いて、心で感じたままに身体を動かすことを楽しむ。
第7回	目白幼稚園園児達との音楽表現活動4 まとめの音楽活動を行い、子ども達と音楽表現をする喜びや楽しさを味わう。
第8回	指導計画と指導の実際1～子どもの発達に応じて～
第9回	指導計画と指導の実際2～豊かな音楽表現活動への発展とは～
第10回	指導計画と指導の実際3～指導案の作成①～テーマを考える
第11回	指導計画と指導の実際4～指導案の作成②～全体の構成を考える
第12回	指導計画と指導の実際5～ロールプレイング～グループディスカッション
第13回	指導計画と指導の実際6～ロールプレイング～模擬実践
第14回	研究発表
第15回	研究発表、学習のまとめ

◇使用テキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

◇単位認定の方法及び基準

授業への取り組みに対する意欲や態度40%、指導計画の立案、実践発表40% 提出課題20%

保育内容演習Ⅱ（運動）

担当 茗井香保里

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

実践を通して、乳幼児の発育発達段階に応じた乳幼児の運動あそびの重要性を理解し、実践力の獲得を目指す。

◇授業全体の内容の概要

乳幼児の体づくりに有効な調整運動と発育発達を踏まえた運動あそびの援助法を習得し、かつ、子どもたちの創造性や感性を豊かにする指導内容を学ぶ。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

乳幼児を、心地よく運動あそびへと導き、十二分に遊ばせる技を習得できたかどうか。発育発達の理解・環境の準備・整備・ことば掛け等。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション・基本体操とその理論・四足位の重要性
第2回	マットを使った運動あそび（道として用いる）
第3回	マットを使った運動あそび（用具として用いる）
第4回	巧技台を使った運動あそび（名称・組み方・遊び方）
第5回	ボールを使った運動あそび（一人一ケの基本のあそび）
第6回	ボールを使った運動あそび（二人以上の集団あそび）
第7回	短縄を使った運動あそび（一人一本の基本のあそび）
第8回	短縄を使った運動あそび（二人以上の集団あそび）
第9回	長縄を使った運動あそび（乳児向け・幼児向け・親子）
第10回	フープを使った運動あそび（一人一本～二人以上の集団あそび）
第11回	タオルを使った運動あそび（一人一本～二人以上の集団あそび）
第12回	模擬保育実践（チームごとに実践 その1）
第13回	模擬保育実践（チームごとに実践 その2）
第14回	まとめ：生涯健康とQOLを目指した「運動あそび」を考える
第15回	まとめ：乳児の発育発達の順序・健康な体づくりに大切なこと

◇使用テキスト・参考文献

『いのちかがやく健康育て』茗井香保里 著 推敲舎

◇単位認定の方法及び基準

授業への意欲・態度・準備 40% 課題の内容 30% 確認テスト 30%

音楽Ⅲ

担当 引地・岩瀬・蔵田
中倉・森・中井

演習 2年前期

◇授業の目的・ねらい

- ①1年次に習得したピアノの奏法技術をより深め、保育現場で実践できる音楽表現力を高める。
- ②子どもの歌の伴奏を滑らかに且つ、表現豊かに奏することができる。
- ③子どもの表現を見ながら弾き歌いができる。

◇授業全体の内容の概要

本授業では、1年次でのピアノの学びを踏まえ、子どもの表現を見ながら、自信を持って弾き歌いができる等の実践力を身につけ、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現技術も学んでいく。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

子どもたちが歌ったり、表現したりする際、子どもたちの音楽表現を根底で支え、育み、伸ばしていくことのできる保育者の感性や音楽表現力を養う。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション／コードによる伴奏付① 及び関連楽曲
第2回	コードによる伴奏付② 及び関連楽曲
第3回	コードによる伴奏付③ 6/8拍子 及び関連楽曲
第4回	楽曲に合ったいろいろな伴奏法① 及び関連楽曲
第5回	楽曲に合ったいろいろな伴奏法②（アルベルティ・バスの伴奏等） 及び関連楽曲
第6回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等① コードを見て、瞬時に和音を押さえられるようにする。
第7回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等② まどめの曲の課題発表、選曲
第8回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等③ 一つの曲で、いろいろな伴奏型を体験する。
第9回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等④ 曲の雰囲気やイメージに合わせた伴奏型を自分で選択できるようにする。
第10回	子どもの歌弾き歌い伴奏① ピアノ曲と子どもの歌の曲想を感じ取り、曲を理解できるようにする。
第11回	子どもの歌弾き歌い伴奏② 曲の構成を理解し、ピアノ技術の向上を目指す。
第12回	子どもの歌弾き歌い伴奏③ 暗譜で弾けるよう練習を重ね、表情豊かに表現できるようにする。
第13回	子どもの歌弾き歌い伴奏④ 音楽的な表現力を身につけていく。
第14回	子どもの歌弾き歌い伴奏⑤ 子どもの歌弾き歌いは、先生役になってピアノを弾く練習をする。
第15回	学習のまとめ、ピアノ演奏・発表

◇使用テキスト・参考文献

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校
中級、上級者のテキストは、個人のレベルに合わせ担当講師が選択する。

◇学生に対する評価

まどめの演奏・発表 60%、授業への参加態度及び課題への取り組み 40%
音楽Ⅲ終了時まで、『たのしく弾くピアノ教本』の105番「思い出のアルバム」まで到達していること。

音楽（ピアノ）

担当 引地・岩瀬・蔵田 演習 2年後期
久道・中倉

◇授業の目的・ねらい

- ① 2年前期までに習得したピアノの表現技術をより深め、保育現場で実践できる音楽表現力を高める。
- ② 楽曲を正しく、且つ表現豊かに奏することができる。
- ③ 子どもの音楽表現を豊かに引き出していくことができる。

◇授業全体の内容の概要

本授業では、実習で弾く子どもの歌や、就職試験対策、又、最後に校内発表会を行うことを予定しているの
で、2年間の学びの総まとめとなるような曲等、各人の希望に合わせた内容で実施される。担当教員と相談の
上、自身の目標を設定し、達成していくことを目指す。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

保育現場で求められる、子どもの遊びを豊かに展開するために必要なピアノの奏法技術を習得する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	ピアノ学習のための目的と心構え。学習計画及び楽曲の選定、就職試験対策等
第2回	個人のレベルによりスタート点を決め、レッスン開始
第3回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 1
第4回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 2
第5回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 3
第6回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 4
第7回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 5
第8回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 6
第9回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 7
第10回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 8
第11回	選択楽曲及び童謡・子どもの歌伴奏法とコードによる簡易伴奏等 9
第12回	校内発表会の楽曲のまとめと仕上げ 1
第13回	校内発表会の楽曲のまとめと仕上げ 2
第14回	校内発表会の楽曲のまとめと仕上げ 3
第15回	校内発表会

◇使用テキスト・参考文献

『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門
学校
上記の教科書、又は担当教員と相談の上、自由選択する。

◇単位認定の方法及び基準

校内発表会における演奏・発表 60%、授業への参加態度及び課題への取り組み 40%

言語Ⅱ

担当 藤村公三郎 演習 2年後期

◇授業の目的・ねらい

人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて理解し、実践の中で生かせるようにする。幼児にとっての児童文化財の意義を理解する

◇授業全体の内容の概要

領域「言葉」の指導の基盤となる、豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。特に、その過程での環境や人間関係、遊びを中心とした様々な活動をとらえ、特に、子どもの内面の動きを見取った保育者のかかわりの仕方を学びあう。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

人間にとっての言葉の意義や機能を理解し説明できる。言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、乳幼児の発達の姿と合わせて説明できる。児童文化財に付いて基礎的な知識を身につける。絵本、物語、紙芝居等を乳幼児の発達を理解し、それに合わせた実践を行う。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション 人間と言葉について考える 領域(言葉)の内容から自分の言葉を見直し、学習の目当てを立てる
第2回	幼児教育の基本 幼児教育の目的と領域 幼児期にふさわしい教育 小学校以上の教育の基盤として 子どもの発達と保育内容
第3回	幼児教育の基本 環境を通しての教育 環境との出会い 子どもが活動を進め組織し計画する活動を学ぶ
第4回	幼児教育の基本 幼児期にふさわしい生活の展開 遊びを通しての双方向的指導ひとり一人の発達の特性に応じた指導 計画的な環境の構成
第5回	保育者の様々な役割 用意し、見守り、支える 指導し、助言し、共に行う。共感し、受け止め、探り出す あこがれとモデルになる。
第6回	領域「言葉」 領域「言葉」と領域間の関係 言葉の獲得に関する領域「言葉」ことばの基盤を育む領域「言葉」
第7回	幼児期の発達とことば からだで感じる世界 自分で広げる世界 広がる活動世界
第8回	乳幼児期のことばの発達と大人の存在 心の拠り所となり、内的世界を受け止めるやりとりを支え、広げる
第9回	ことばの発達をとらえる視点 様々な表現としての言葉 コミュニケーションとしての言葉 耳から親しむ言葉 目で楽しむ言葉
第10回	信頼関係から生み出される言葉 言葉にならない表現を受け止める 居場所、居方を見つける行為を通してつながる心
第11回	信頼関係から生み出される言葉 言葉で伝え合う生活経験を共有する 言葉で伝えたいくなるような体験 実感を伴った体験の積み重ね
第12回	イメージ、感覚を共有する 豊かな言葉を生み出す基盤 からだを通した共通のイメージ
第13回	「今、ここ」を超えて広がる世界とことば 書き言葉(文字)が広がる世界 文字に出会う 文字を自分のものにする 文字を介した活動 絵本 てがみ
第14回	ごっこ遊びとことば イメージをふくらませる 言葉を使って考える 役割とことば 状況設定とその共有
第15回	まとめ 講座の受講の振り返りと学習の確認

◇使用テキスト・参考文献

『事例で学ぶ保育内容<領域>言葉』無藤隆 監修 宮里暁美 編者代表 萌文書林

◇単位認定の方法及び基準

テスト 60% 提出課題 20% 演習への参加態度と内容 20%

◇実務経験のある教員の担当する授業科目該当

中学校教諭・校長(30年)・教育委員会にて教育相談員(2年)の実績を持つ。また、文部科学省学習指導要領解説作成協力者(3年)・文部科学省中央指導者研修会講師(4年)、学童保育所(4年6ヶ月)にてアドバイザーや施設長代理としての実績を持つ。

環境

担当 渡部美佳

演習 2年後期

◇授業の到達目標及びテーマ

1. 子ども理解に基づき、領域「環境」の面からも子どもにとって意義ある保育が展開できるような基礎的な知識・技術を身につけることができる。
2. 子どもが主体的に問題解決をする際に適切な指導・助言ができるようになる。そのため、学習者自ら日常生活の中にも不思議なことが潜んでいることに気づき、環境に関する感覚を研ぎ澄ませる習慣を身につけることができる。

◇授業の概要

本授業では、身近な環境との関わりに関する領域「環境」への理解を深める。子どもにとっての身近な環境を捉えるとともに、それらに対する接し方を学ぶ。理論のみでなく保育の現場で実際に直面する「環境」に関して、実物を見たり触れたりする体験も取り入れる。そして子どもの心身の発達を考慮しつつ、領域「環境」に関わる保育を展開できる能力を養う。

なお、作業に必要な物を事前に連絡することがあるので、よく確かめて出席すること。また天候などにより授業の順番が前後することもある。

◇授業計画

	内 容
第1回	領域「環境」とは(1)：領域「環境」の目的・ねらい・内容を理解する
第2回	領域「環境」とは(2)：幼児を取り巻く環境を知り、現代における課題を理解する
第3回	身近な環境を知る(1)：植物の観察と栽培
第4回	身近な環境を知る(2)：連続した植物の観察と栽培
第5回	身近な環境を知る(3)：昆虫の観察
第6回	身近な環境を知る(4)：生き物の飼育
第7回	ものに関わる保育の実践(1)：自然環境を取り入れた保育
第8回	ものに関わる保育の実践(2)：身近な素材を使った保育
第9回	おさんぽマップ作り(1)：おさんぽ地図の作成
第10回	おさんぽマップ作り(2)：おさんぽ地図の発表会
第11回	身近な施設の利活用(1)：身近な施設の見学
第12回	身近な施設の利活用(2)：身近な施設と保育
第13回	年中行事と保育
第14回	保育と教育の連続性
第15回	領域「環境」のまとめと解説 定期試験

◇テキスト

『新版実践保育内容シリーズ「環境」』大澤 力 編著 一藝社

◇参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

『幼稚園教育要領 平成 29 年告示』文部科学省 2017 年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年告示』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2017 年

『保育所保育指針 平成 29 年告示』厚生労働省 フレーベル館 2017 年

◇学生に対する評価

授業の取り組み姿勢(20%)、レポート(50%)、定期試験(30%)により総合的に評価する。

リトミック・音楽理論

担当 引地敦子 演習 1 年前期
志田尾恭子

◇授業の目的・ねらい

- ①ダルクローズ・リトミックを通して、保育者に必要とされる豊かな感性を養い、音楽の持つ力（魅力）や、子どもと音楽の関係について探っていく。
- ②基礎的な音楽理論を併せて学習することにより、更なる音楽理解と体得を深めていく。

◇授業の概要

本授業ではリトミック・アプローチを用いて、子どもの音楽活動を中心とした授業内容を展開し、理論と実践の両面から理解を深め、さらに保育者の豊かな感性と音楽表現力を高めることを目指す。

◇授業修了時の達成課題（到達目標）

- ①保育者の豊かな感性と音楽表現力を高める。
- ②基礎的な音楽理論を理解する。

◇授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

	内 容
第1回	オリエンテーション（授業の参加の仕方等）リトミックとは 音楽とコミュニケーション
第2回	リトミック 手遊び歌①／拍（ビート）を感じる。手拍子回し 音符の長さ① ステップ（四分音符、二分音符）、フレーズ「きらきら星」
第3回	音楽理論 楽譜のしくみ①、音名と様々な記号①（変化記号）
第4回	リトミック 手遊び歌②／音符の長さ② ステップ（付点二分音符、全音符、八分音符） 世界の民謡、ダンス／拍の分割（三連符、十六分音符）
第5回	音楽理論 楽譜のしくみ②、音符と休符
第6回	リトミック 手遊び歌③／強弱、アクセントと拍子「あんたがたどこさ」 スキップとギャロップ（付点八分音符と十六分音符）／わらべうた①
第7回	音楽理論 拍子とリズム①、小節、様々な記号②（速度記号と強弱記号）
第8回	リトミック ステップチェックテスト、わらべうた②
第9回	音楽理論 拍子とリズム②、様々な記号③（発想記号）
第10回	リトミック 音楽と動きの創作身体表現①（グループワーク） ハ長調における主要三和音のハーモニーをトーンチャイムで演奏する。
第11回	音楽理論 和音とコードネーム、様々な記号④（奏法を表す記号）
第12回	リトミック 音楽と動きの創作身体表現②（グループワーク） 「きよしこの夜」の曲のメロディーをハンドベル、ハーモニーをトーンチャイムで 演奏する。
第13回	音楽理論 振り返りと確認
第14回	リトミック 創作身体表現の発表、ハンドベルとトーンチャイムの発表
第15回	音楽理論 まとめ

◇使用テキスト・参考文献

『子どものための音楽表現技術』今泉明美・有村さやか 編著 萌文書林
『保育のための子どものうた選集「たのしく弾くピアノ教本」』 改訂第2版 引地敦子 監修 東京教育専門学校
音楽ファイル
『すてきな保育者をめざして』改訂第2版 兼重祐子 監修 東京教育専門学校

◇学生に対する評価

授業への参加態度、実技・発表40%、筆記試験50%、提出課題10%

学校
法人

和田実学園

東京教育専門学校

目白本館：〒171-0031

東京都豊島区目白2-38-4

電話 03(3983)3385 (代) FAX 03(3983)3386

発行者 東京教育専門学校